

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○千葉大学、芝浦工業大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ		
	【英文】	SDI-A : Social Design Initiative in Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	植田憲	(所属・職名) デザイン・リサーチ・インスティテュート・所長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://socialdesigninitiative.studio.site/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 新型コロナによる移動制限が続いているため、実質派遣・受入については当初の計画通りには実施できなかった。しかし、その代替として、Online Joint Design Classを立ち上げ、計画よりも多い、千葉大学の学生47人、延世大学27名、合計74名が参加した。またウェブサイトの立ち上げ、学生のリクルートシステム、連携大学のスタッフ全員が定例で参加するSDI Organizer Online Meetingなど、初年度に構築すべきシステム、サポート体制を概ね整えることができた。
【特に優れた取組】 実質派遣・受入が行えない代わりに、Online Joint Design Classを立ち上げ、ウェブサイトの立ち上げ、学生のリクルートシステム、連携大学のスタッフ全員が参加するSDI Organizer Online Meetingなど、初年度に構築すべきシステム、サポート体制を概ね整えることができた。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 参加学生の質の保証については、専用ホームページ、全学に向け説明会を通じて広く周知を図り募集を行う。研究テーマ、渡航計画、意気込みなどを含んだ応募書類を提出させ、応募書類、面接により参加学生の選考を行う。渡航先での活動の質の保証については、週に一度、渡航先の連携大学のメンターを訪れ、1週間の活動内容についての報告を行う。また月に一度、本事業に参加している学生、メンター全員が参加するオンライン合同ミーティングを開催し、各学生の取り組みの進捗状況を確認し、活動状況について評価を行う。
【特に優れた取組】 2021年度は実際の派遣は1名しか行えなかったが、学生のリクルートについては、ホームページ、説明会を通じて、周知を図ることができた。また応募システムについては、Google Form、Youtubeを活用し、参加動機、研究内容について動画を作成し、投稿する応募システムを確立した。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 これまで旧日中韓、キャンパス・アジア（モード2）を実施し、実際に多数の外国人学生の受入及び日本人学生の派遣を行っており、制度、環境についてはある程度は整っているが、さらに改善をしていきたい。
【特に優れた取組】 今回のコロナ禍により、急な渡航変更、キャンセルなどの対応を通じて、より柔軟な手続きが行えるようになった。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 2020年度より“ENGINE（Enhanced Network for Global Innovative Education）”が始動され、学部・大学院生の全員留学を目指しており、ENGINEとの連携しながら本事業を推進する。情報公開については、これまでに実施してきた世界展開力事業と同様、専用ホームページを通じて、情報公開を行う。またそれ以外にも説明会を実施することにより、学生への周知を図る。
【特に優れた取組】 早急に専用ホームページを立ち上げ、学生への周知が図れた点は良かった。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
当初の計画では、SDI 秋期生として3名の派遣を計画していたが、実際の派遣は、延世大学への1名に留まった。しかし、2022年3月に予定していたSDI・インテンシブの代替授業として、延世大学と千葉大学の共同で、Online Joint Design Classを立ち上げ、実際の計画よりも多い、千葉大学の学生47人、延世大学27名、合計74名が参加した。また事業の運営を円滑に行うため、12月16日より本事業に関係する連携大学のスタッフ全員が毎月参加するSDI Organizer Online Meetingを開催するようになった。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
zoom, Google Meetなどのオンライン会議システムと併用して、Google Document, Google Sheet, Google Slide、オンラインホワイトボードツールMiroを活用することで、オンラインの特性を活かした参加者全員でリアルタイムに双方向で創造活動を行えるよう工夫した。 また今回、Online Joint Design Class "Infographic Design"の成果発表の場として、VRを使ったバーチャル展示会の開催を行った ( <a href="https://socialdesigninitiative.studio.site/posts/the-modern-interior-design">https://socialdesigninitiative.studio.site/posts/the-modern-interior-design</a> )。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）			12	6	18	12	24	18	24	36	78	
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24	96	90
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	12	24	24	36	36	48	48	48	132	168
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	12	6	18	12	24	18	24	36	78
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	12	12	12	12	18	18	24	24	30	24	96	90
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	48	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	1	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	47	A	27	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	400%	225%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	48	27	0	0	0	0	0	0	0	0	48	27
交流相手国 中国	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
交流相手国 韓国	実渡航	1	0								1	0
	オンライン	A	47	A	27	A	A	A	A	A	47	27
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航										0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド										0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	12	12	12	24	24	36	36	48	48
	オンライン	0	0	0	12	6	18	12	24	18
	ハイブリッド	12	12	12	12	18	18	24	24	30
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		1	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	1								
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航									
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		47	27	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航									
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航									
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航									
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航									
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	1	0										1

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	0					0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

当初の計画では、SDI秋期生として、3名の派遣を計画していたが、新型コロナの感染拡大により出入国制限解除の見通しが立たなかったため、最終的には延世大学へ1名の派遣に留まった。

また当初は2022年3月にSDI・インテンシブとして、浙江大学、延世大学、キングモンクット工科大学トンプリ校、それぞれに4名の派遣を計画していたが、出入国制限解除の見通しが立たず派遣には至らなかった。

【特に優れた取組】

新型コロナの感染拡大により出入国制限解除の見通しが立たず、当初計画していた派遣は実施できなかったが、1名実際に長期派遣をできたのは良かった点である。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

当初の計画では、SDI秋期生として、3名の受入を計画していたが、新型コロナの感染拡大により出入国制限解除の見通しが立たず、一人の受入れにも至らなかった。

また当初は2022年3月にSDI・インテンシブとして、18名の受入れを予定したが、出入国制限解除の見通しを立てるのが困難であったため、代替授業として、延世大学と千葉大学の共同で、Online Joint Design Class "Infographic Design"を立ち上げ、千葉大学の学生47人、延世大学27名、合計74名が参加した。また最終展示会もバーチャルで開催した (<https://socialdesigninitiative.studio.site/posts/the-modern-interior-design>)。

【特に優れた取組】

3月の受入れが難しいと早めに判断し、当初の計画を変更し、Online Joint Design Classを立ち上げることができたのは良かった。

またバーチャル展示会の実施も、新しい試みであり、成果発表の新しい在り方として可能性を感じられた。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	2	2	2	6	6	8	8	12	12

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	8	8	8	8
浙江大学	認定単位数	1	2	2	2	2
延世大学	認定者数	8	8	8	8	8
	認定単位数	1	2	2	2	2
マヒドン大学 他	認定者数	0	0	4	6	12
	認定単位数	0	0	2	2	4
年度別認定者数合計		16	16	20	22	28
年度別認定単位数合計		2	4	6	6	8

2. 国内連携大学 【大学名：芝浦工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	4	4	4	4
浙江大学	認定単位数	1	2	2	2	2
延世大学	認定者数	4	4	4	4	4
	認定単位数	1	2	2	2	2
マヒドン大学 他	認定者数	0	0	2	6	6
	認定単位数	0	0	2	2	4
年度別認定者数合計		8	8	10	14	14
年度別認定単位数合計		2	4	6	6	8

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
浙江大学	認定単位数	0				
延世大学	認定者数	1				
	認定単位数	2				
マヒドン大学 他	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		1	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		2	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：芝浦工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
浙江大学	認定単位数	0				
延世大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
マヒドン大学 他	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

# 大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）

## 令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジアの国際関係・公共政策：DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成		
	【英文】	BESETO + NUS Platform for the Double Degree, Exchange and Online Learning Programs on International and Public Policy Studies in Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	飯田 敬輔	(所属・職名) 公共政策学教育部長	
	(交替年月日)	令和4年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

<p>本事業における2021年度取組内容について記入してください。</p>
<p><b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b></p> <p>①交流プログラムの内容</p> <p>本プログラムは、公共政策・国際関係分野における大学院レベルの学生交流であり、単位取得を伴う交換留学（3か月以上6か月未満）、学位取得を伴うダブル・ディグリー、オンラインによる科目等履修とその他の交流との組み合わせを主な柱とする。相手校は北京大学（PKU）国際関係学院、ソウル大学校（SNU）国際大学院、シンガポール国立大学（NUS）リー・クワンユー公共政策大学院である。大学院の標準修業年限が2年であるところ、4大学の中でどのように学生のモビリティを確保していくかが今後の課題である。</p> <p>2020年度までの実績に基づき、2021年度の交付決定以前より、参加大学の教員が共同で担当する科目「CAMPUS Asia Joint Course」を東京大学にてオンラインで実施した。また、これまで継続してきたプログラムに空白が生じないよう、交付決定前から学生の派遣・受入を継続した。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>モード2からモード3への端境期にプログラムが途切れることによって、すでにプログラムに参加中あるいは参加することが確定している学生の学習計画に不利益が生じないよう、参加大学間で協議の上、派遣・受入を継続した。2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限のため、実渡航が出来た学生は少なかったものの、オンラインによる授業を履修し、論文指導もオンラインで受ける体制を継続させたことは特筆すべき取組である。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>本学とNUSとのバイラテラルによるダブルディグリーと交換留学の実績をベースとして、PKU-NUS、SNU-NUS間でも今後の学生交流開始に向けた交渉を開始した。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>参加校全ての間でダブルディグリーを実施できるようプログラムを設計することにより、単位認定や学位授与のプロセスを可視化し、質の保証を伴った難易度の高い学生交流を可能にする土台作りを開始した。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>コロナ禍の対応として、本学では旅行業者と契約し、空港から自主隔離施設への移動、宿泊施設の確保など入国後スムーズに日本での生活を開始できるようサポートを行い、派遣する日本人学生には情報提供を行った。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>本大学院では、留学生担当職員3名が常に最新情報を確認し、学生の早期入国のための申請、ビザの手配や本学の学生寮などへの代理申請、オンライン授業となって心身の変調を訴える学生などの相談に乗ってきた。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>日中韓の未来志向の協力やASEANとの連携に向けたグローバル・リーダーの養成は、本学が果たしうる重要な国際貢献であるため、日本人学生の確保と本取組の周知に注力する。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>プログラムの周知活動に力を入れ、ハイブリッド形式で主に4月入学の日本人学生を対象として、プログラム説明会を計画・実施し、2022年度の参加学生の選抜を行った。</p>
<p><b>(2) 特記すべき成果</b></p> <p>2022年度「CAMPUS Asia Joint Course」開講に向けた教育内容の拡充は特記すべき成果である。春学期のみの開講（4単位）から通年（各学期2単位）としたことにより、参加学生同士のコミュニケーションが年間を通じて取りやすくなった。春学期には東アジアの国際関係と公共政策について学び、秋学期には日本の公共政策について学ぶため、修了生の協力を得て地方自治体との協働によるソリューションベースの授業とし、中央省庁（総務省）の人事部経由でアジアの学生との交流を希望する官僚を募集するという、我が国でも新しい試みを行うよう協議を重ねたことで、本プログラムの充実に貢献した。</p>
<p><b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b></p> <p>コロナ禍において渡航制限がある中でプログラムを継続するためには、オンラインによる授業が必須であった。本大学院では、対面授業と遠隔授業を同時に行う「ハイフレックス形式」の授業に対応するための施設を各教室に整備した。また、交付決定前の春学期ではあるが、日中韓にいる学生と北海道余市町を結んで授業を行うなど、オンラインならではの利点も活用する取り組みを行った。</p> <p>一方、オンラインの授業中でしか学生同士や学生と教員が交流できないため、対面に比べどうしても情報量が減ってしまう。対面であれば、授業の合間の雑談なども可能であるが、オンラインの授業だとどうしても人工的な空間と時間での参加となり、コミュニケーションが希薄になりがちである。このため、担当教員が学生と一人ずつ面談を行って自由に話してもらうことで学生の不安を取り除く取組を行った。なお、2022年4月以降の留学生の入国が本格化することに向け、東大のガイダンスの範囲で、オンラインと併用しながら、対面の授業やキャンパスアジアのOBとの対面のイベント等も計画した。</p>

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12	57	59
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11	25	32
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1	21	14
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0	11	13
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12	57	59
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11	25	32
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1	21	14
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0	11	13
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	1	A	0	A		A		A		A	
	B	0	B	0	B		B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	3	0										
達成目標に対する実績の割合	31%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	1	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	3	0								3	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：【交流形態別 内訳】（計画）

●申請時の計画調書記載人数

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12
	オンライン	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11
	ハイブリッド	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										

●海外相手大学追加調書分

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン										
	ハイブリッド										

●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	13	12	10	12	10	11	12	12	12	12
実渡航	0	0	0	0	7	10	9	11	9	11
オンライン	6	11	6	0	3	1	3	1	3	1
ハイブリッド	7	1	4	12	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
オンライン	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
オンライン	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 1 B 0	A 0 B 0	A	A	A	A	A	A	A	A
ハイブリッド	3	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
オンライン	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
オンライン	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
オンライン	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	3	0										3

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	3					3

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

交付決定後の派遣については、2022年度春学期に向けての派遣4名（3名が韓国への実渡航+オンライン授業、1名が韓国から北京大学の授業をオンライン受講）であった。申請時の計画には、2021年4月~2022年3月までの数字を含んでいるため、達成目標に対する実績の割合としては低く見えるが、実際にはモード2からの継続として引き続き派遣を行っていたため派遣は12名であった。内訳は、北京大学へのダブル・ディグリー（オンライン2名、実渡航+オンライン1名）3名、交換留学（オンライン）4名、ソウル大学校へのダブル・ディグリー0名、交換留学4名（実渡航+オンライン）、シンガポール国立大学へのダブル・ディグリー1名（実渡航）であった。

また、2.（4）にある、派遣した学生が留学で取得した単位のうち本学での認定単位数については、2021年度交付決定後に派遣した学生の帰国が2022年度になるため2021年度は0となる。計画調書においては、2021年4月から2022年3月までに計画されている派遣学生数と、その学生達が留学後に本学で単位認定されるであろう単位数を示した。現時点（2022年6月）では、2021年度派遣学生の単位認定が行われている最中であるため、数字は確定していない。

【特に優れた取組】

モード2からモード3への端境期にプログラムが途切れることによって、すでにプログラムに参加中あるいは参加することが確定している学生の学習計画に不利益が生じないように、参加大学間で協議の上、派遣を継続した。2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限のため、実渡航が出来た学生は少なかったものの、オンラインによる授業を履修し、論文指導もオンラインで受ける体制を継続させたことは特筆すべき取組である。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

交付決定後の受入については、すでに2021年度の受入開始後であったため、0名であった。申請時の計画には、2021年4月~2022年3月までの数字を含んでいるため、達成目標に対する実績の割合としては低く見えるが、実際にはモード2からの継続として引き続き受入を行っていたため、受入は11名であった。内訳は、北京大学からのダブル・ディグリー（オンライン）3名、交換留学（オンライン）3名、ソウル大学校からのダブル・ディグリー4名（オンライン）、交換留学1名（オンライン）であった。

【特に優れた取組】

モード2からモード3への端境期にプログラムが途切れることによって、すでにプログラムに参加中あるいは参加することが確定している学生の学習計画に不利益が生じないように、参加大学間で協議の上、受入を継続した。2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限のため、実渡航が出来た学生はいなかったものの、オンラインによる授業を履修し、交流を継続させたことは特筆すべき取組である。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		北京大学	認定者数	6	5	4
	認定単位数	69	77	59	51	51
ソウル大学校	認定者数	6	4	4	5	5
	認定単位数	43	33	33	51	51
シンガポール国立大学	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	18	18	36	36	36
年度別認定者数合計		13	10	10	12	12
年度別認定単位数合計		130	128	128	138	138

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	2	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		北京大学	認定者数	0		
	認定単位数	0				
ソウル大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
シンガポール国立大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京藝術大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築		
	【英文】	Asian Animation Education Network: Establishment and Management		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	岡本 美津子	(所属・職名) 映像研究科・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://animation.geidai.ac.jp/>  
<https://ca.geidai.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

<p>本事業における2021年度取組内容について記入してください。</p>
<p><b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b></p> <p>①交流プログラムの内容</p> <p>アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN) 参加予定校との、ネットワーク構築に向けた情報共有と協議を重点的に行った。オンラインの活用により、当初の計画を上回る積極的な交流を行った。</p> <p>令和4年1月21日に、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校、タイ・シラパコーン大学、および、ラオス国立美術学校とキックオフシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」を開催した(視聴者人数:60名)。シンポジウムでは平成22年発足の東京藝術大学・中国伝媒大学・韓国芸術総合学校の三校による教育カリキュラム「アニメーション国際共同制作演習 (Co-work)」の新旧参加学生が、国際間プロジェクト経験から得た知見について発表を行った。また、タイ・シラパコーン大学とラオス国立美術学校がASEAN各国におけるアニメーション教育事情や求められるカリキュラム等について説明し、参加者間で活発な議論を行った。令和4年3月31日に、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校とAAENのキックオフイベントをメタバース(コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、3次元の仮想空間)上で開催した。中国伝媒大学、韓国芸術総合学校とASEAN諸国の学部生を対象としたオンラインレクチャーのパイロット版制作について協議した。また、アニメーション教育の学士課程がある多摩美術大学、および連携校で学部生向けカリキュラムの受講対象となるシラパコーン大学に関連調査を行った。加えて、ラオス、インドネシア、シンガポール等のASEAN諸国ともAAEN構築に向けた協議を開始した。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>アジアアニメーション教育ネットワーク (AAEN) の構築に向け、キックオフシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」(令和4年1月開催)にて情報共有と協議を行った他、オンラインの活用により当初の計画を上回る交流を持つことができた。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>令和3年9月にダブルディグリー協定を締結した韓国芸術総合学校と、令和4年度からのプログラム実施に向け、二校間で会議を行った。また、本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、事業の評価を行った。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>令和3年9月にダブルディグリー協定を締結した韓国芸術総合学校と、令和4年度からのプログラム実施に向け、二校間で会議を行った。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>プロジェクト専任教職員3名を配置し、学生受入及び派遣の支援体制を整備した。また、令和4年度より開始するプログラムの受講やオンライン共同制作に適応しつつ、各国の事情にも対応した通信環境の整備を行った。加えて、日本人学生に、語学力強化を目的としたeラーニングの受講機会を提供した。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>令和4年度より開始するプログラムの受講やオンライン共同制作に適応しつつ、各国の事情にも対応した通信環境の整備を行った。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>Co-workおよびAAENの啓蒙と発信を目的とするウェブサイト「Tokyo Geidai Campus Asia Plus (仮称)」の開設を準備した。今後は、既設の「東京藝大アジア・アート・イニシアティブ (AAI)」を活用し、アジアの芸術文化を扱っている国内大学、研究機関、財団等との連携も模索する。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>Co-workおよびAAENの啓蒙と発信を目的とするウェブサイト「Tokyo Geidai Campus Asia Plus (仮称)」の開設を準備した。</p>
<p><b>(2) 特記すべき成果</b></p> <p>本事業の取組主体である本学映像研究科アニメーション専攻の2020年度修了生(平成28年度「大学の世界展開力事業」タイプA-② CAMPUS Asia「国際アニメーションコース創設に向けた日中韓Co-workカリキュラム」参加生)、副島しのぶの修了作品「Blink in the Desert」が、第68回オーバーハウゼン国際短編映画祭(令和4年5月)にて「スペシャル・メンション」を受賞した。</p>
<p><b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b></p>

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	11	11
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	1	2	8	15	10	19	10	19	10	19	39	74
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3	11	11
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6	8	23
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	0	A	0	A		A		A		A	
	B	15	B	12	B		B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	1500%	600%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	15	12	
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	15	B	12	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

【交流形態別 内訳】	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	7	12	8	13	8	13	8	13
実渡航	0	0	2	2	3	3	3	3	3	3
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	1	2	1	3	2	6	2	6	2	6
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 15	A 0 B 12	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0									0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	15					15

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

コロナ禍においてもオンラインの活用により、当初の計画を上回る交流を行うことができた。

令和4年1月21日に、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校、タイ・シラバコーン大学、および、ラオス国立美術学校と開催したシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」において、平成22年から継続的に行っている東京藝術大学・中国伝媒大学・韓国芸術総合学校の三校による教育カリキュラム「アニメーション国際共同制作演習(Co-work)」の新旧参加学生が、国際間プロジェクト経験から得た知見やその後の活動に与える影響について発表を行った。また、令和4年1月25日に開催されたイベント「留学生の心象風景－アニメーション作品上映&トーク」において、日本でアニメーションを学ぶ留学生を中心とした本学アニメーション専攻の学生が作品を上映し、アジア地域研究のコメンテーターと感想、議論を交わした。両イベントに登壇した本学学生は延べ15名にのぼった。

【特に優れた取組】

コロナ禍においてもオンラインの活用により、当初の計画を上回る交流を行うことができた。

本学アニメーション専攻の大学院生延べ15名が、令和4年1月に開催したシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」とイベント「留学生の心象風景－アニメーション作品上映&トーク」に登壇した。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

コロナ禍においてもオンラインの活用により、当初の計画を上回る交流を行った。

中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の大学院生12名が令和4年1月21日に開催したシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」に登壇し、平成22年から継続的に行っている東京藝術大学・中国伝媒大学・韓国芸術総合学校の三校による教育カリキュラム「アニメーション国際共同制作演習(Co-work)」参加学生として、国際間プロジェクト経験から得た知見やその後の活動に与える影響について発表を行った。

【特に優れた取組】

コロナ禍においてもオンラインの活用により、当初の計画を上回る交流を行った。

中国伝媒大学、韓国芸術総合学校の大学院生12名が令和4年1月21日に開催したシンポジウム「Stepping Forward ～アジアアニメーション教育ネットワーク発足に向けて～」に登壇した。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		中国伝媒大学	認定者数	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
韓国芸術総合学校	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
シラパコーン大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	1	1	1
年度別認定単位数合計		0	0	10	10	10

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		中国伝媒大学	認定者数	0		
	認定単位数	0				
韓国芸術総合学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
シラパコーン大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京工業大学		
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。	
事業名	【和文】	日中韓新先進科学技術4大学 (T <sup>2</sup> KN) 共同教育プログラム	
	【英文】	Joint Education and Research Programs of Top Asian Science and Engineering Universities (T <sup>2</sup> KN Consortium)	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	調 麻佐志	(所属・職名) リベラルアーツ研究教育院・教授
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.ipo.titech.ac.jp/campusasia/japanese/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 令和3(2021)年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東京工業大学、中国の清華大学、韓国科学技術院(KAIST)、南洋理工大学が合同で4大学の学生が参加できるオンラインプログラム「ウィンターキャンプ」を実施し、32名の学生が参加した。プログラムは、学生主体のアクティビティ、4大学の教員による特別講義、「新型コロナ時代のアート、科学技術の新しい貢献」をテーマとしたチームプロジェクト/チームプレゼンテーションで構成された。参加学生は4大学混合の5チームに分かれ、テーマの解釈、取り組む課題の選定、解決策の考案、アートとの関連について議論を重ね、最終日のプレゼンテーションに臨むべく準備を進めた。各チームのプレゼンテーションは、4大学の教員と参加学生によって評価され、「優勝」「教員賞」「学生賞」が授与された。参加学生にとって、国籍、学年、専門分野が異なる学生との議論・発表・交流を通して、互いの理解や知見を深める機会となった。
<b>【特に優れた取組】</b> 学生同士の親交を深めるため、学生主体のアクティビティの時間を設け、各大学の参加学生が企画し、自分たちの大学のキャンパスや自国の文化の紹介などを行った。スライドだけでなく、クイズが組み込まれ、双方向のコミュニケーションにより学生を楽しませようという工夫を散りばめた、笑いが溢れた時間となった。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の仕組み形成 ○ウィンターキャンプは本学がメインホストを務めたが、4大学がプログラムの企画段階から関わり、4大学の参加学生それぞれが多様な経験ができるように構成した。また、学事歴や各国の行事を確認し、各大学の学生が参加しやすい日程に開催できるよう配慮した。 ○プログラムを修了した参加学生には、4大学のプロジェクトリーダーの署名入りの修了証を授与した。また、賞を受賞したチームには、表彰状を授与した。
<b>【特に優れた取組】</b> 新たにシンガポールの南洋理工大学が加わったこともあり、活動内容の検討のため、4大学の教職員が複数回のオンラインミーティングでの意見交換を重ね、4大学合意の上で事業を推進することができた。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 連携大学および本学からの参加学生に、ウィンターキャンプ前にウェルカムキットとして、アクティビティで使用する教材やリーフレット、連携大学が準備したトレーナー等を事前に送付した。それにより、オンラインでもキャンパスアジア生としての一体感、同じプログラムに参加しているという連帯感が生まれた。
<b>【特に優れた取組】</b> ○ウィンターキャンプ用のSlackワークスペースを設置したことで、参加学生同士が効率よく意見交換をすることが可能となった。 ○本学学生に事前英語レッスンを提供することでプログラム参加前に不安点を解消し、自信を持ってプログラムに臨めるようにした。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 オンラインプログラムを提供することで、コロナ禍で学生が留学する機会が著しく減る中でも、本学学生に国際交流の機会を提供することができた。
<b>【特に優れた取組】</b> ○本プログラムの紹介動画(日・英)およびウィンターキャンプ記録動画を制作し、本学ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル、本プログラムウェブサイトに掲載し、本学学生・教職員ならびに学外へのプログラム周知を図った。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
○令和3(2021)年度に実施したウィンターキャンプに参加した学生1名が、令和4(2022)年度に南洋理工大学にセメスター留学(実渡航)をする予定であり、オンラインプログラムでの経験が長期留学につながる好事例となった。 ○ポスターを新規デザインで制作し、学内で学生が目にする複数の場所に掲示することで、プログラム周知を進めた。また、4大学の意見を反映したプログラムロゴをKAIST主導で制作した。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
○コロナ禍で対面での集まりが難しい中、オンラインでの留学プログラム座談会を開催し、プログラム概要や過去にプログラムに参加した学生による体験談を多くの学生に伝えることができた。 ○令和4(2022)年度に向けて、本学学生がオンラインで留学手続きを行えるよう全学的に準備を進めている。手続きの負担が軽減され、留学を目指す学生の利便性向上が期待される。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		8	10	18	22	18	28	18	22	18	28	80
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18	36	66
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		8	10	18	22	18	28	18	22	18	28	80
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	4	6	8	12	8	18	8	12	8	18	36	66
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		5	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	5	B	27	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0											
達成目標に対する実績の割合	63%	270%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	5	27	0	0	0	0	0	0	0	0	5	27			
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	5	B	27	B		B		B		B		5	27
	ハイブリッド	0	0								0	0			
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	4	0	4	0	4	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	4	0	4	0	4	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	8	6	11	15	11	21	11	15	11
	オンライン	4	6	8	12	8	18	8	12	8
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	4	4	0	4	0	4	0	4
	オンライン	0	4	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	0	4	0	4	0	4
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	3	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	27	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	2	B	27	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0									0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	0					0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

令和3（2021）年度は、本学の学生4名がオンラインプログラムに参加し、4名を南洋理工大学に超短期派遣する計画であった。令和3（2021）年度もなお新型コロナウイルス感染拡大が続き、実渡航による派遣を実施できる状況にならず、南洋理工大学への超短期派遣分の補助金は翌年度に繰り越し、令和4（2022）年度に実施する計画となった。

実渡航が叶わぬ状況下で、連携大学で協議した結果、2021年度は4大学合同でオンラインプログラムを実施することに決定した。4大学の学生が参加できるオンラインプログラム「ウィンターキャンプ」には、本学と連携大学の学生5名を合わせて32名の学生が参加した。プログラムは、学生主体のアクティビティ、4大学の教員による特別講義、「新型コロナ時代のアート、科学技術の新しい貢献」をテーマとしたチームプロジェクト／チームプレゼンテーションで構成され、参加学生は4大学混合の5チームに分かれ、テーマの解釈、取り組み課題の選定、解決策の考案、アートとの関連について議論を重ね、最終日のプレゼンテーションに臨んだ。参加学生にとって、国籍、学年、専門分野が異なる学生との議論・発表・交流を通して、互いの理解や知見を深める機会となった。また、「ウィンターキャンプ」に参加した学生1名が、令和4（2022）年度に南洋理工大学にセメスター留学（実渡航）をする予定であり、オンラインプログラムでの経験が長期留学につながる好事例も出てきている。

【特に優れた取組】

オンラインプログラム「ウィンターキャンプ」では、4大学が合意して設定したテーマ「新型コロナ時代のアート、科学技術の新しい貢献」の元、メインホストを務めた本学だけでなく、各大学の教職員が意見を持ち寄り、複数回のオンラインミーティングを通して企画・実施した。南洋理工大学を加えたMode3初年度として、このように4大学が協力して1つのプログラムを実施できたことは、今後の事業運営をスムーズに進めるための大切な機会であった。

また、Mode2までの課題でもある派遣学生数の伸び悩みについて本プログラムの部会構成員と意見交換を行い、学生向けのプロモーションに加え、教員向けのプログラム周知を強化する方針を固めた。実渡航での留学が再開する令和4（2022）年度初めから、教員向けプロモーションを開始すべく準備を進めている。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2022年1月～3月に連携大学から実渡航で4名を受け入れる計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大が続き実渡航が叶わず、翌年度に計画を延期することとなった。そのため、令和3（2021）年度の実渡航による受入は0であった。上記の⑨で記載したオンラインプログラム「ウィンターキャンプ」は、受入プログラムとしても位置づけており、連携大学からの参加学生を受入学生としてカウントしている。企画当初は、各大学5名程度で合計20名の参加を見込んでいたが、まだ実渡航での留学が難しい状況下で、連携大学からは倍近い応募があり、最終的には連携大学から27名、本学から5名の計32名での実施となった。

プログラム終了後に参加学生に取ったアンケート調査では、約8割が連携大学の留学したいと思ったと回答しており、オンラインプログラムが実際の留学につながるきっかけになったと言える。

【特に優れた取組】

上記の⑨で「ウィンターキャンプ」に関する特に優れた取組を記載しているが、それに加えて、プログラム終了後の参加学生アンケートでは、「1. Did T2KN CAMPUS Asia Plus Online Winter Camp meet your expectations?」に対してアンケートに回答した全員がStrongly AgreeもしくはSomewhat Agreeと回答しており、「ウィンターキャンプ」が期待通りのプログラムであったと言える。

また、学生が主体となってアクティビティを行うStudent-led Activityの時間を設けて、それぞれの大学や国、文化についてのプレゼンや双方向のアクティビティを企画してもらったことで、各大学のカラーも感じられる、笑い溢れる交流の時間となった。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
	(なし)	人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 東京工業大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0	1	1	1
清華大学	認定単位数	0	3	3	3	3
	認定者数	0	1	1	1	1
KAIST	認定単位数	0	3	3	3	3
	認定者数	0	1	1	1	1
南洋理工大学	認定単位数	0	3	3	3	3
	認定者数	0	1	1	1	1
年度別認定者数合計		0	3	3	3	3
年度別認定単位数合計		0	9	9	9	9

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
清華大学	認定単位数	0				
	認定者数	0				
KAIST	認定単位数	0				
	認定者数	0				
南洋理工大学	認定単位数	0				
	認定者数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京海洋大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム －オケアヌスプラス－		
	【英文】	OQEANOUS Plus: Education program fostering advanced professionals who can create technology and its application in the strategic development for sustainable utilization of the ocean		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	舞田 正志	(所属・職名)	国立大学法人東京海洋大学理事・ 副学長（教育・国際担当）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.g2.kaiyodai.ac.jp/oqeanous/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 本プログラムは、2016年度にキャンパスアジア第2モードとして開始した日中韓の海洋系大学3校によるオケアヌスプログラムを前身としており、本プログラム開始時点で日中韓3大学間における交流プログラムの一部については既に実施スキームが構築されていたことから、まずは2021年度においては、先行して日中韓3大学間で、単位互換を伴う1セメスターの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム(IJP)及びダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム(DDP)の2022年春学期募集を行い、2月に本学から韓国海洋大学校(以下KMOU)にIJP学生2名を派遣した。その他新たな取組として、オンライン合同説明会と併せてオンライン学生交流会(OEP)を開催(3月17日～18日)し、7大学から106名の学生・教職員(うち本学からは学生20名、教職員7名)が参加した。
<b>【特に優れた取組】</b> オンライン学生交流会(OEP)をオンライン合同説明会と併せて開催することで、学生交流の場の提供だけで終わらせることなく、各大学の紹介やリアルタイム型の模擬授業(本学からは2名の教員がそれぞれ1コマずつ実施)への参加を通じて、実渡航を伴うIJP及びDDPや、オンラインと実渡航ハイブリッド型のサマースクール(STP)参加への意欲向上や具体的な参加イメージの構築に有効な取り組みとなった。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 本プログラムの枠組み構築及びプログラム実施に向けた検討の場として、参加7大学の教職員・コーディネーターで構成する「オケアヌスプラス協議会」及び協議会の円滑な遂行を目的とした日中韓の3大学のみで構成するサブミーティングを設置し、協議会を4回、サブミーティングを3回オンラインで開催した。協議会等では、2022年度秋学期のASEAN4大学を含む7大学間のIJP開始に向け、第2モードで構築した日中韓3大学共通の質の保証を伴う単位互換システム「CTSEA(Credit Transfer System in East Asia)ガイドライン」をベースとして、ASEAN4大学を追加した新たなガイドライン(仮称:CTSEAA)の構築を進めた。
<b>【特に優れた取組】</b> ASEAN4大学を追加した新たな単位互換システムのガイドラインは、「CTSEAガイドライン」をベースに比較的スムーズに構築が進んでいる。また、ASEAN諸国と日中韓ではスクールカレンダーに大きな差異があることを踏まえ、新たにスクールカレンダーの比較表を整理し、ワークロード(学修時間)だけではなく、実際の滞在期間についても同等なものとなるよう調整を進めている。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 中国及び韓国の学生や教職員との意思疎通や合意形成に齟齬が生じないよう、日中韓トリリンガルのコーディネーターを配置し、SNS等を活用して派遣先のKMOUと派遣手続、授業科目の選択、教員マッチング、入国時対応に関するこまめな調整を行い、コロナ禍の中でもスムーズな派遣を実現できた。また、留学中の安全対策への意識向上のため、外部機関の協力を得て海外渡航に関する危機管理セミナーを開催し、派遣学生への参加を義務付けた。受入に当たっても同様の連絡調整を進める体制は整備済みである。
<b>【特に優れた取組】</b> 学生とコーディネーターが渡航前から渡航後までSNSで連絡が取れる体制を維持することで、学修面のみならず、生活面の不安や悩みを気軽に相談できる環境を提供している。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本プログラム専用公式サイトを2022年3月に開設し、学内外に各種イベントやプログラムの情報発信に活用している。2022年度には、新たに構築した単位互換のガイドラインや各種様式を掲載し一層の充実を図る。なお、2022年3月にしたオンライン学生説明会のスキームを活用して、2022年度には本学として初めてリアルタイム型の外国人留学生向けオンライン入試説明会を開催する予定としており、本プログラムの実績や事例が本学の他の取組に波及する形で国際化が推進する一つの事例となった。
<b>【特に優れた取組】</b> 専用公式サイトを立ち上げ、前プログラムの公式サイトとリンクを繋げることで、第2モードの成果を第3モードに効果的に活用することができている。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
・2022年秋学期の参加7大学によるIJP相互派遣実施に向け、日中韓及びASEAN4大学共通の質の保証を伴う単位互換システムの構築を進めた。完成したガイドラインは、今後他の中、韓、ASEAN諸国の大学との交流にも活用することを想定している。 ・オンライン学生交流会(OEP)をオンライン合同説明会と併せて開催することで、単なる学生交流の場で終わらせることなく、各大学の紹介やリアルタイム型の模擬授業への参加を通じて、実渡航を伴うIJP及びDDPへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築に有効な取り組みとすることができた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
・2022年春学期派遣に向けた学内説明会をオンラインで開催するに当たり、本プログラムの前身であるオケアヌスプログラム参加者としてKMOUに派遣中の学生がリアルタイムで参加し、コロナ禍における現在の留学生活や学内外の様子や各種規制等について説明、紹介した。その結果、コロナ禍で若干の不安を感じていた学生の不安軽減に繋がり、2022年春学期に本学から2名の学生派遣が実現した。その派遣した2名の学生も、2022年5月に開催した2022年秋学期派遣に向けた学内説明会に現地から参加し「今」の留学生活を紹介した。コロナ禍の2年間でオンラインによるミーティングが当然のものとなり、主催者側も参加する側もオンラインに負担を感じるものがなくなったことがプラスに働いた成果であり、今後は派遣学生が派遣先の研究室を紹介する、キャンパス内をカメラを持って紹介する等様々な工夫を重ねながら、学生が本当に知りたい内容を提供できる説明会にリアルタイム型オンラインスキームを活用していく予定である。 ・オケアヌスプラス協議会やサブミーティングをオンライン開催することで、時間的にも費用面でもコストの削減が進み、頻繁な開催(現在は1か月に1回)が可能となっており、単位互換ガイドラインの構築の進捗にプラスの影響をもたらしている。また、オンライン開催により、本学の関係教員を多数参加させることが可能となっており(実渡航の際は、旅費所要額や授業への影響を考えると渡航可能な少数の教員しか参加できなかった)、学内の関係教員間の情報共有には非常に有益である。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	6	0	13	40	15	43	16	43	16	43	66	169
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11	41	41
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	5	0	0	22	0	22	0	22	0	22	5	88
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	6	0	13	40	15	43	16	43	16	43	66	169
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11	41	41
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	5	0	0	22	0	22	0	22	0	22	5	88
実渡航とオンライン受講を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10	20	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	61	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	2	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
	B	20	B	61	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	367%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	22	61	0	0	0	0	0	0	0	0	22	61	
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	2	0								2	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	20	B	61	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
自己負担又は大学負担等 による交流学生数	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

【交流形態別 内訳】	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	5	0	5	10	5	10	5	10	5	10
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	5	10	5	10
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
実渡航	1	0	8	8	10	11	11	11	11	11
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	22	0	22	0	22	0	22
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	12	0	12	0	12	0	12
ハイブリッド	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	2	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	20	61	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 20	A 0 B 61	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2	0									2	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	3					3

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

単位互換を伴う1セメスターの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム（IJP）及びダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム（DDP）の2022年春学期募集を行い（日中韓3か国のみ先行実施）、2022年2月に本学から韓国海洋大学校（KMOU）にIJP学生2名を派遣した。（実渡航：2名）  
オンライン学生交流会（OEP）をオンライン合同説明会と同時開催し、本学から20名の学生が参加した。（オンラインB：20名）

【特に優れた取組】

キャンパスアジア第2モード「オケアヌスプログラム」の5年間で構築した単位互換ガイドラインをベースにして、ASEAN4大学に先駆け、日中韓3か国でIJP及びDDPの2022年春学期派遣を先行実施できた。  
OEPをオンライン合同説明会と同時に開催したことで、参加学生にとって、単なる学生交流の場だけではなく、IJP及びDDPへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築に寄与する取組となった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

単位互換を伴う1セメスターの相互派遣プログラムである国際協働教育プログラム（IJP）及びダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム（DDP）の2022年春学期募集を行った（日中韓3か国のみ先行実施）結果、韓国海洋大学校（KMOU）から1名、IJP学生の参加希望があった。しかし、日本の入国制限の影響で途中で辞退の申し出があり受入に至れなかった。

オンライン学生交流会（OEP）をオンライン合同説明会と同時開催し、上海海洋大学（SHOU）、韓国海洋大学校（KMOU）、チュラロンコン大学（CU）、カセサート大学（KU）、マラヤ大学（UM）、ポゴール農科大学（IPB）の6校から、合計61名の学生が参加した。（オンラインB：61名）

【特に優れた取組】

キャンパスアジア第2モード「オケアヌスプログラム」の5年間で構築した単位互換ガイドラインをベースにして、ASEAN4大学に先駆け、日中韓3か国でIJP及びDDPの2022年春学期派遣を先行実施できた。  
OEPをオンライン合同説明会と同時に開催したことで、参加学生にとって、単なる学生交流の場だけではなく、IJP及びDDPへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築に寄与する取組となった。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)	0				
(指標2)	0				
(指標3)	0				
(指標4)	0				
(指標5)	0				

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)	0				
(指標2)	0				
(指標3)	0				
(指標4)	0				
(指標5)	0				

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

**(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】**

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	0	4	4	6	6	6	6	6	6

**(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】**

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京海洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海海洋大学	認定者数	0	2	2	2	2
	認定単位数	0	20	20	20	20
韓国海洋大学校	認定者数	1	2	2	2	2
	認定単位数	10	20	20	20	20
チュラロンコン大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
カセサート大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
マラヤ大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
ボゴール農科大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		1	6	8	8	8
年度別認定単位数合計		10	60	80	80	80

【2021年度末における目標の達成状況】

**(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】**

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(※注) 2022年2月より単位互換を伴うプログラム (IJP) 参加学生2名を1大学 (韓国海洋大学校) に派遣したが、まだセメスター終了前であり単位を取得できていないことから、大学数についても0とカウントしている。

**(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】**

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京海洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
上海海洋大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
韓国海洋大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
チュラロンコン大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
カセサート大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
マラヤ大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
ボゴール農科大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	名古屋大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成		
	【英文】	Human resource development to support legal and policy platforms for deepening "jus commune" in East Asia and disseminating it to ASEAN and the World		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	増田 知子	(所属・職名) 大学院法学研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.law.nagoya-u.ac.jp/~campusasia/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 2021年度は本学から韓国へ1名の学部学生を長期留学生として派遣し（実渡航）、中国から5名（学部学生4名、大学院生1名）、韓国から3名（学部学生2名、大学院生1名）の計8名を長期留学生として受け入れた（オンライン）。また、短期では、2月末に韓国の成均館大学の韓国語の授業に、4名の学部学生が約三週間オンラインで参加した。
【特に優れた取組】 オンラインのみでも海外から名古屋大学の全授業を受講できるようにした。中国への渡航・オンライン留学は叶わなかったが、韓国は渡航を可能とした。韓国は感染状況に応じてオンラインと対面の授業を交互に実施したため、派遣学生は直接現地学生や教員との交流できる場が確保された。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 モード1, 2を基礎としてモード3の協定を締結した。これにより、令和4年度秋学期からシンガポールから本大学に学生を受け入れることが決定している。来年度は参加大学が協働して、本交流プログラムの質を保証するためのQuality Assurance協議会を実施し、プログラムの運営方法や課題等の検討を行う。
【特に優れた取組】 各国のコロナ禍の影響で、国によっては教職員の出勤が禁止ないしは大幅に制限されたりしたため、メールによる稟議の形式で協議せざるを得ない状況であった。年度内に協定を締結が実現できたのは、長きにわたって構築されてきた協働関係・信頼関係による結果である。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 派遣された学生が中心となり、受入生のチューターとして日本語の補修や手続き等のサポートをオンラインでも対応した。報告会等の行事の運営、派遣学生募集のための広報活動にも当たった。
【特に優れた取組】 学生自らオンライン説明会を開催し、留学に興味を持つ学生に留学体験を語り、その後相談会を設け、留学を検討している学生に広く公開したことでプログラムに興味を持つ学生が増加した。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 同窓会のネットワークを利用し、派遣された学生が主体となって同窓会報を作成した。同窓会員だけでなく、留学を目指している学生にも広く配布できる内容となるよう工夫された。
【特に優れた取組】 卒業生と在校生との間にキャンパス・アジア生としての強いネットワークがあり、同窓会報を作成する場合、留学前や就職活動中の相談にのったりと、学生同士の強いつながりができている。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
本プログラム本研究科の卒業生の実務家や研究者、国内外の中国や韓国の専門家による特別講演や授業を事前学習の一環としてオンラインで実施した。本研究科の大学院留学生による授業も実施し、参加学生に刺激を与えた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
・派遣を終えた学生による留学報告会・座談会をオンラインで実施した際、オンライン上で質問することをためらう学生や、当日参加できない学生に対応するため、事前にオンラインアンケートを実施し、留学に対する質問や疑問点を収集した。また、なるべく多くの学生が参加できるよう、別の日程で二度実施し、さらに録画を一定期間公開した。 ・コロナ禍で大学への登校が制限される中、オンラインでの相談・質問を受付、対応した。 ・事前学習の一環として、特別講演や授業を、本プログラム本研究科の卒業生の実務家や研究者、国内外の中国や韓国の専門家、協定校の教員などによってオムニバス形式で提供した。本研究科の大学院留学生による授業も実施し、参加学生に刺激を与えた。特別講演や授業も全て録画し、一定期間オンラインで公開した。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(iii)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
		30	26	30	26	30	26	30	26	30	26	150
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13	69	70
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	1	8	10	13	10	13	10	13	10	13	41	60

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(iii)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
		0	0									
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0										
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	0	0										

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(iii)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
		30	26	30	26	30	26	30	26	30	26	150
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	29	18	10	13	10	13	10	13	10	13	69	70
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	1	8	10	13	10	13	10	13	10	13	41	60

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(iii)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		5	8	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	0	A	8	A		A		A	
	B	4	B	0	B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生(以下「ハイブリッド」)	1	0								
達成目標に対する実績の割合	17%	31%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	5	8			
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	4	B	0	B		B		B		B		4	0
ハイブリッド	1	0									1	0			
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	8	A		A		A		A		0	8
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0								0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	30	26	20	26	20	26	20	26	20
	オンライン	1	8	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	29	18	10	13	10	13	10	13	10
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	10	0	10	0	10	0	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	1	8	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	1	A	8	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	4	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	1	0										1

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	66					66

⑨：交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2021年度は、中国に派遣を希望する学生は多数いたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、日本人の受入が叶わなかった。中国はオンラインでの受け入れも実施しなかったため、中国への派遣は0だった。韓国への派遣希望者も多数いたが、韓国での感染拡大の影響を受け、応募する学生が減り、それでも1名の学生を実際に現地へ派遣することができた。その他、キャンパスアジア姓のために用意された成均館大学の韓国語の授業には、オンラインで4名の学生が参加した。

【特に優れた取組】

韓国の協定校は感染状況に応じてオンラインと対面の授業を交互に実施され、派遣学生は直接現地学生や教員との交流できる場が確保された。

⑩：交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

日本の水際対策の影響で、実渡航を希望していた8名全員が渡日することが叶わなかった。各国のコロナ禍の影響で、互いに連絡が取りにくく、計画通りに進めることができなかった。

【特に優れた取組】

名古屋大学法学部の授業を全てオンラインで開講したことにより、留学生が母国から全ての授業を受けることができた。

(2) その他(上記(1)に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		中国人民大學	認定者数	0	5	5
	認定単位数	0	100	100	100	100
成均館大學	認定者数	1	5	5	5	5
	認定単位数	20	100	100	100	100
シンガポール国立大學	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	60	60	60	60
年度別認定者数合計		1	13	13	13	13
年度別認定単位数合計		20	260	260	260	260

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		中国人民大學	認定者数	0		
	認定単位数	0				
成均館大學	認定者数	1				
	認定単位数	15				
シンガポール国立大學	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		1	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		15	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	大阪大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成		
	【英文】	Nurturing of medical and public health research leaders to solve health problems in global societies		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	金井 好克	(所属・職名) 大学院医学系研究科・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

・大阪大学 世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラムホームページ：  
<http://www.pbhel.med.osaka-u.ac.jp/campusasia/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

<p>本事業における2021年度の取組内容について記入してください。</p>
<p><b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b></p>
<p>①交流プログラムの内容</p> <p>グローバル社会において、臨床・基礎・社会医学の分野におけるトップレベルの研究者と地域社会で活躍できるリーダー育成を目指し、中国の北京、清華、上海交通、天津中医薬大学、韓国の延世大学校と学术交流協定を締結した。その中で、学生交流・教育プログラムの展開と研究者・指導者の交流を実施してきた。中でも特筆すべきはダブル・ディグリー・プログラム(DDP)の開始と実質化であり、2021年度までに6名の派遣と受け入れを行った。2022年度には2名の学位取得を予定している。2021年度には、感染症対策課題への取り組みと教育プログラム充実のため、タイ王国のマヒドン大学、中国の広東薬科大学、大阪大学の微生物病研究所、医学系研究科保健学専攻、国立国際医療研究センターが新たに参画し、本事業をASEAN地域へと拡大した。各機関の代表者による会議を開催し、協力体制について確認を行うとともに、協定書の締結、DDプログラムの開始に向けて話を進めた。3月に開催したオンラインシンポジウムには、新たに参画した機関の教員、学生も参加した。今後の課題としては、新規に参画した機関との間で学生交流の体制を構築し、なるべく早く実際の渡航を伴う交流を開始することが挙げられる。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>本事業のDDPでは、北京大学、天津中医薬大学、上海交通大学、天津中医薬大学、延世大学校とのDD協定を締結し、DD取得を目指した学生の受入・派遣を行っている。2020年度の延世大、北京大との間で行った2名ずつの派遣・受入に続き、2021年度には新たに北京大学の学生1名を受け入れ、延世大学校へ学生1名を派遣した。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>本プログラムでは、キャンパス・アジアの国内・国外の連携講座教授から成る「キャンパス・アジア教務委員会」を組織して質の保証の体制整備に努めてきた。新しく加わった大学、新規連携協力先とも内部質保証システムを伴った教育システムを構築することが重要であると考えている。また、学生の受け入れ先となる協力教室を維持・拡大し、多様なニーズに対応できるようにしていくことが今後の課題である。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で中期・短期の実渡航が難しい状況にあったため、国際シンポジウムや学生指導の研究会をオンラインで開催した。国際的な研究活動・交流に参加するインセンティブとなるよう、履修条件を満たした本学学生には国際交流科目の「グローバル人材育成研修科目」の単位修得を可能とした。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>受入学生一人ずつに対して、現地大学の担当者との連携を密にとり、受入学生の研究や学習の希望、要配慮情報等を送り出し大学の教員と共有し、学生と受入れ担当教員との面接や調整等を経て受入れ研究室のマッチングを行っている。学内の新規参画部局においても、このような受け入れ態勢を確実に構築していくことが今後の課題である。派遣学生には、情報の提供やインターネット等を通じた相談を必要に応じて行っている。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>留学生の履修計画支援・学習支援・生活面のサポート体制の基盤となる「キャンパス・アジア留学生支援センター」を設置し、英語でのコミュニケーションが十分とれる教職員を配置するとともに、日本人学生の留学生サポーターを選定し、上記の組織・体制と協働してきめの細かい支援やカウンセリングを行っている。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>本事業のHPを開設し、交流プログラムの詳細、交流の実施状況、国際シンポジウムやセミナー等の関連イベントの周知・報告を掲載し、国内外への情報発信として活用している。海外学生へのPRにより力を入れるために、本学海外拠点である東アジア拠点、及びASEAN拠点と今後連携していく。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>オンラインシンポジウムとグループワークの開催を通じて、より多くの優秀な学生に本プログラムが認知されるよう努めた。同窓会のネットワークを活用した情報発信は今後も継続する予定である。</p>
<p><b>(2) 特記すべき成果</b></p> <p>新たな参加大学であるマヒドン大学、広東薬科大学との協定の締結が順調に進んでいる。2022年3月に開催された第一回国際教員会議では参加大学共通の交流プログラムの策定、単位互換・成績評価・修了証書の発行、内部保証システムについて協議し共有体制の構築を行った。</p>
<p><b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b></p> <p>オンラインによる交流では、実渡航による交流に比べ多くの学生の参加が可能になることから、より多くの学生が国際的な研究活動に興味を持つきっかけとなるように積極的に活用している。3月に開催したオンラインシンポジウムでは、コンソーシアム大学の教員による講演と、学生同士のグループワークを組み合わせることにより、国際的な学生交流の機会を確保した。また、国際的な研究活動・交流に参加するインセンティブとなるよう、履修条件を満たした本学学生には国際交流科目の「グローバル人材育成研修科目」の枠組みを活用しての単位修得を可能とした。</p>

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	9	9	16	16	17	18	19	21	21	21	82	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	31	31

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	92	83	103	84	105	86	108	88	108	413	516
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	9	9	16	16	17	18	19	21	21	21	82	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	60	80	60	80	60	80	60	80	60	80	300	400
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7	31	31

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	40	45	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	2	2								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	1	A		A		A	
	B	38	B	42	B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	56%	49%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	40	45	0	0	0	0	0	0	0	0	40	45	
交流相手国 中国	実渡航	0	1								0	1	
	オンライン	A	0	A	1	A		A		A		A	
		B	0	B	41	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	2	1								2	1	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	1	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航	0	0								0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	38	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	28	38	37	47	37	47	37	47	37	47
実渡航	5	5	10	10	10	10	10	10	10	10
オンライン	20	30	20	30	20	30	20	30	20	30
ハイブリッド	3	3	7	7	7	7	7	7	7	7
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
実渡航	1	1	1	1	2	2	1	2	2	1
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
実渡航	3	3	5	5	5	6	8	9	9	10
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	40	50	40	50	40	50	40	50	40	50
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	34	1	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	1								
オンライン	A 0 B 34	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	1	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	1	1								
オンライン	A 0 B 0	A 1 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	4	42	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 4	A 0 B 42	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	2									0	2

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	169					169

⑨：交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルス感染症の影響で短期中期派遣留学の実渡航ができなかったため、ハイブリッドで公衆衛生セミナーを開催、オンラインにて国際シンポジウムを開催した。ハイブリッドで開催した公衆衛生セミナーには32名の学生がオンラインで参加し、国際シンポジウムには6名の参加があった。  
長期留学のDDPは新たに、延世大学校に学生1名を派遣した。

【特に優れた取組】

国際シンポジウムの講義のあと、グループワークを開催し複数国の学生が互いに意見を交換し、最終日にはグループ代表者による発表を行い国際的な学生交流の機会を確保した。国際的な研究活動・交流に参加するインセンティブとなるよう、履修条件を満たした本学学生には国際交流科目の「グローバル人材育成研修科目」の枠組みを活用しての単位修得を可能とした。

⑩：交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルス感染症の影響で短期中期派遣留学の実渡航ができなかったため、オンラインにて国際シンポジウムを開催し42名の参加があった。  
長期留学のDDPは新たに、北京大学の学生1名を受け入れた。

【特に優れた取組】

国際シンポジウムの講義のあと、グループワークを開催し複数国の学生が互いに意見を交換し、最終日にはグループ代表者による発表を行い国際的な学生交流の機会を確保した。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021.8	公衆衛生セミナー	152 人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

**(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】**

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	2	3	2	1	2	1	1	2	2

**(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】**

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：大阪大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	1	1	0	1
北京大學	認定単位数	10	10	0	10	0
天津中醫藥大學	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	10
上海交通大學	認定者数	0	1	0	0	0
	認定単位数	0	10	0	0	0
延世大學校	認定者数	0	1	1	0	1
	認定単位数	0	10	10	0	10
年度別認定者数合計		1	3	1	1	2
年度別認定単位数合計		10	30	10	10	20

【2021年度末における目標の達成状況】

**(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】**

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	2								

**(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】**

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：大阪大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
北京大學	認定単位数	0				
天津中醫藥大學	認定者数	0				
	認定単位数	0				
上海交通大學	認定者数	0				
	認定単位数	0				
延世大學校	認定者数	1				
	認定単位数	10				
年度別認定者数合計		1	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		10	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	神戸大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム		
	【英文】	Multidisciplinary Education Program for Careers on Risk Management Experts		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	大村直人	(所属・職名) 理事・副学長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://kobeucpasia.wp.xdomain.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

<p>本事業における2021年度の取組内容について記入してください。</p>
<p><b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b></p>
<p>①交流プログラムの内容</p> <p>【進捗状況】第2期外部評価委員会においてリスクマネジメントの人材ニーズは発展途上国にあることを踏まえ、既存の3大学にチュラロンコン大学(タイ)やラオス国立大学(ラオス)を含めたコンソーシアムの拡大を行った。また、2019年度より、リスク・マネジメント共同論文集の編集を立ち上げ、リスク・マネジメントの概念について3大学内で共通の知を構築する取組を行った。</p> <p>【課題と今後の展望】本学における短期プログラムやインターンシップ派遣支援などの実施は、中国・韓国の学生が本学へ留学する動機となっており、受入学生にとって魅力あるプログラムとなっている。その一方で、本学の学生の派遣は、コロナウイルスの影響により、滞っており、コロナ後を見据えた長期派遣・受け入れにどのように繋げるかが重要である。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>長期留学のみならず、インターンシップを組み合わせた短期プログラムを各大学にて整備することにより、長期留学によって得られる専門性への理解を深め、将来のキャリア構築支援を継続的に行っている。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>【進捗状況】2021年度秋学期は、5大学の教員によるリスクマネジメントセミナーを合計28回開催した。また、外部評価委員会を年度末に実施し、その結果はコンソーシアム委員会及び学内外実務者会議にてプログラムの成果共有と問題点の相互確認、チェックを行っている。</p> <p>【課題と今後の展望】3大学は、リスク・マネジメント講義科目の共有化を図り、リスク・マネジメント科目の修了要件を満たした学生には、3大学共同のプログラム修了証明書を発行することに合意した。3大学における共同修了証明書の発行は、各大学のリスク・マネジメント教育の可視化という点で非常に有効である。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>リスクマネジメントセミナーだけでなく、世界銀行やウガンダ政府関係者といったリスクマネジメント関連の第一線で活躍する講師を招き、それぞれの専門分野に関する集中講義「World Bank and SDGs」を行った。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>【進捗状況】受入学生の事前サポートとしては、TAやチューターを通じて留学生生活全般のサポートを行っており、修学上の諸問題は専任教員が個別に指導する体制が整っている。また、ダブルディグリー学生においては事前に指導教員との連絡を通じ、研究計画内容について双方向の意見交換をemail上で行っている。</p> <p>【課題と今後の展望】派遣・受入生ともに月1回のレポート提出を課しているが、質問項目を増やす等、より学生の身に立った支援ができるよう努力していく。受入生に対しては来日の初期段階でのサポートが重要であると認識しているため、受入開始の10月、11月にかけて学生のケアを集中的に継続し行う予定である。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>リスク・マネジメント専門家という人材育成の一環として、キャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問などを行い、受入・派遣生の専門家としての継続的なキャリア形成を支援している。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>【進捗状況】2022年2月にプログラムの事業承認と成果の普及を記念して「キャンパスアジア・プラス・プログラム キックオフシンポジウム」をオンラインにて開催した。シンポジウムは2部構成で、コンソーシアム5大学の教員が参集し共同事業やリスクマネジメントの課題について議論するとともに、キャンパスアジア生による研究成果の発表や、同窓生によるプログラムの意義が共有された。</p> <p>【今後の課題と展望】本プログラムをより効果的に学内外に周知するため、大学のHPやSNSを活用した情報の公開や成果の普及活動に取り組んでいくことが課題である。</p>
<p>【特に優れた取組】</p> <p>2021年度は学生交流だけでなく、オンラインによる教員交流を日中韓3か国合同で行い、アジアにおける高等教育コミュニティの普及・発展について議論し、その成果を本プログラムに反映する予定である。</p>
<p><b>(2) 特記すべき成果</b></p> <p>・国内外の専門家、研究者を招請して行われる「リスクマネジメントセミナー」を本年度も継続して開催した。学生のニーズが高い「国際機関」「開発コンサル」のキーワードに引き続き扱い、国際機関で活躍している実務家から専門的な世界基準の講義を学生が受講できるようになった。</p> <p>・プログラムのアウトカムとして、修了生の中から、UNESCOアジア太平洋地域教育事務局、国際協力機構(JICA)、アクセンチュア株式会社といった国際的なリスク・マネジメントにかかわる機関への就職を果たし、グローバルな人材育成プログラムとして評価を受けた。</p>
<p><b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b></p> <p>Zoomのサービスを利用し、オンライン共同教育プログラム、「Risk Management 1」の開講を高麗大学・復旦大学・神戸大学の3大学同時中継で行うことで、学生交流を含めた臨場感ある授業を実施した。安定的な接続環境を維持するためにも3大学の担当者が連携し、オンライン講義の改善を行っていきたい。</p>

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8	40	36
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	3	8	4	8	3	8	4	31	14
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	16	12	25	22	27	22	26	22	27	22	121	100
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	6	2	8	9	9	8	8	9	9	8	40	36
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	50	50
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	7	3	8	4	8	3	8	4	31	14
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	7	1										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	44%	8%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	
交流相手国 中国	実渡航	2									2	0	
	オンライン	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0									0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	5	1								5	1	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航										0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A		A		A		A		A		0	0
		B		B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド										0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	4	0	4	0	4	0	4
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	0	4	0	4	0	4
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	16	12	21	22	23	22	22	22	23
	オンライン	6	2	8	9	9	8	8	9	9
	ハイブリッド	10	10	10	10	10	10	10	10	10
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド									
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド									
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	7	1	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド									
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド									
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド									

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	3	1										3

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	5					5

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2021年度はコロナウイルスによる渡航制限の影響を受け、計画通りの派遣を達成することが困難であった。しかしながら、日本からは7名の学生（高麗大学ダブルディグリー4名・交換留学1名、復旦大学ダブルディグリー2名）を派遣することができ、2022年度より、ラオスショートタームプログラムやダブルディグリープログラムにおいては、継続的な応募があり、渡航制限の緩和などから派遣・受入学生は増加する見込みである。将来的に、長期留学においては、派遣者数は徐々に増えており、さらなる交流枠組みの強化、および、積極的な広報を通じて、より活発な学生の移動を図っていききたい。

【特に優れた取組】

コロナウイルスによる渡航制限の代替手段として、合計28回のリスクマネジメント・セミナーを英語にて開講した。（2021年12月～2022年2月）その際、国際機関での就職相談や就職支援活動を毎回開講することで、渡航制限を受けた学生にも手厚い教育体制を整えることができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2021年度は中国・韓国ともにコロナウイルスによる渡航制限の影響を受け、計画通りの受入ができなかった。しかしながら、高麗からは1名の学生（交換留学）を受け入れることができた。2022年度は、渡航規制の緩和基調から、4名の学生（うち2名がダブルディグリー、2名が交換留学）を受け入れ予定であり、渡航緩和とともに単位互換を伴う留学が相手先大学の学生に広く認知されている状況がうかがえる。特に、ダブルディグリーにおいては、今後も、交流プログラムとして非常に安定して運営される予定である。

【特に優れた取組】

本学におけるプログラムの魅力（学位、ゼミ指導）、学生支援（チューター制度）、キャリア支援（インターンシップ派遣）が広く学生に認知されつつあり、コロナウイルスによる規制緩和後を見据え、安定した受入状況の構築に務めている。特に、キャリア支援は、中国・韓国の学生にとっては魅力的であるため、引き続き、キャリアセミナーの実施、インターンシップ派遣のサポートをオンラインと対面並行して行い、グローバルな人材育成に努めていく。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	5	5	5	5
復旦大学	認定単位数	48	48	48	48	48
	認定者数	5	5	5	5	5
高麗大学	認定単位数	48	48	48	48	48
	認定者数	0	0	1	0	1
チュラロンコン大学	認定単位数	0	0	12	0	12
	認定者数	0	0	1	0	1
年度別認定者数合計		10	10	11	10	11
年度別認定単位数合計		96	96	108	96	108

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数										

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
復旦大学	認定単位数	0				
	認定者数	1				
高麗大学	認定単位数	0				
	認定者数	0				
チュラロンコン大学	認定単位数	0				
	認定者数	0				
年度別認定者数合計		1	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	九州大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム- プログラムのパッケージ化とASEANへの展開 -		
	【英文】	Cooperational Graduate Education Program for the Development of Global Human Resources in Energy and Environmental Science and Technology - Expansion to ASEAN -		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	宮崎 隆彦	(所属・職名) 大学院総合理工学府・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 修士ダブルディグリー生として、単位取得を伴う正規留学については、オンライン及びハイブリッド(実渡航+オンライン受講)を含め、九州大学から上海交通大学へ1名、釜山国立大学へ7名を派遣し、上海交通大学から九州大学へ5名、釜山国立大学から5名を受け入れた。また、8月にサマースクール、3月にスプリングセミナーをどちらも九州大学がホストとなって開催した。サマースクールの参加者は、九州大学の学生25名を含む計45名、スプリングセミナーの参加者は九州大学の学生14名を含む計39名であった。どちらもオンラインで開催したが、ビデオを使った企業の見学会や学生による文化の紹介など、オンライン交流の質を高めるための取り組みを実施することができた。さらに、釜山国立大学がホストとなりオータムセミナー(CSS-EEST国際会議)を開催し、九州大学の学生23名を含む計115名が参加した。以上のイベントには教員も述べ89名が参加しており、博士ダブルディグリーや短期留学のための研究マッチングに向けた交流を深めることができた。加えて、国立台湾科技大学との間で新たに開始した修士課程ダブルディグリープログラムでも、オンラインと実渡航を含め、DD生3名を派遣し、7名を受け入れた。
<b>【特に優れた取組】</b> 上海交通大学と釜山国立大学に合わせて8名のダブルディグリー生を派遣し、両大学から合わせて10名のダブルディグリー生を受け入れた。加えて、国立台湾科技大学とのダブルディグリーでは、3名を派遣、7名を受け入れた。コロナ禍においてもダブルディグリー取得を伴う留学の機会を創出することができた。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> サマースクールにおける修士論文中間審査および修士論文最終審査を母大学と留学先大学の2大学間で共同審査することで、修士論文研究の質を保証している。また、CSS-EEST国際会議における研究発表等、研究内容が外部の視点で評価される機会を作っている。
<b>【特に優れた取組】</b> ダブルディグリー修了者には、当プログラムの正式なCertificateとして3大学の学長連名によるダブルディグリー授与証明書を授与している。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 新型コロナウイルス感染症は終息していないが、このような状況下において実渡航による学生派遣を実現するために、学内手続きや渡航時および帰国時の諸手続など管理体制を整備するとともに、派遣先大学の教員やスタッフと協力し、現地における生活および万一感染した場合のサポート体制を構築した。
<b>【特に優れた取組】</b> 九州大学から釜山国立大学にダブルディグリー生6名を実際に派遣し、5ヶ月間の留学を終えて無事に帰国させることができた。この経験を踏まえて環境整備を進め、今後の実渡航をよりスムーズに実施できるようにした。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 3大学によるダブルディグリープログラムをマレーシア工科大学を加えた4大学に拡充するために、マレーシア工科大学との話し合いを開始した。修士課程修了要件や留学時の取得単位数などについて議論を重ね、MOU締結の準備を進めた。
<b>【特に優れた取組】</b> マレーシア工科大学とのダブルディグリープログラムの準備およびプログラム始動後の学生のケアのために、東南アジア出身の教員をキャンパスアジアプラスの運営に加え、マレーシア工科大学との交渉の窓口としてより綿密な連携を図った。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
2021年度、KUとのDD生12名がオンライン及びハイブリッド(実渡航+オンライン受講)による留学で修士ダブルディグリーを修了した。加えて、修士1年生5名(+修士2年1名)を実際に派遣した。コロナ禍で実渡航の制限が続く状況の中で、オンラインを活用し、かつ、細心の注意を払って学生の留学を実現することができ、学生の希望や社会状況に合わせて柔軟に対応する体制を構築できた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
サマースクールでは、福岡に本社を置く株式会社西部技研殿にご協力いただき、オンラインによる工場見学ツアーを実施した。ビデオカメラを使って工場内をリアルタイムで見学することができ、臨場感のあるオンラインツアーとなった。また、スプリングセミナーでは、マレーシア工科大学も含めた各大学の学生が母大学に関連する文化や社会を紹介するプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションの内容に対して学生同士が質疑をしたが、時間が十分に取れなかったため、今後は、ディスカッションやディベートなどを取り入れ、オンライン交流の内容を拡充することを考えている。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	50	28	85	12	63	88	65	75	77	60	340	263
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	50	8	69	12	44	88	43	70	75	13	281	191
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5	4	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	50	28	85	12	63	88	65	75	77	60	340	263
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	50	8	69	12	44	88	43	70	75	13	281	191
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5	4	10

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	31	55	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	25	A	27	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	25	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	6	3								
達成目標に対する実績の割合	62%	196%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	18	52	0	0	0	0	0	0	0	0	18	52			
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	1	A	13	A		A		A		A		1	13
		B	0	B	10	B		B		B		B		0	10
	ハイブリッド	0	2											0	2
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	11	A	13	A		A		A		A		11	13
		B	0	B	3	B		B		B		B		0	3
	ハイブリッド	6	1											6	1
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	10	B		B		B		B		0	10
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	オンライン	A	13	A	1	A		A		A		A		13	1
		B	0	B	2	B		B		B		B		0	2
	ハイブリッド	0	0								0	0			

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	27	0	31	0	0	57	32	0
実渡航	0	0	27	0	31	0	0	57	32	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	7	6	10	10	11	11	13	16	13	16
実渡航	7	6	10	10	11	11	11	11	11	11
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	2	5	2	5
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	40	20	46	0	19	75	50	0	30	42
実渡航	40	0	30	0	0	75	30	0	30	0
オンライン	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
実渡航	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 20 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	8	10	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 2 B 0	A 7 B 0	A B							
ハイブリッド	6	3								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	23	25	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 23 B 0	A 0 B 25	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	6	3									6	3

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	6					6

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

中国は依然新型コロナの影響で実渡航における交流は不可能であったが、2021年度は上海交通大学がホスト校となるアクティビティもなかったため、DDプログラムにおいてのみオンラインでの1名派遣となった。

対して韓国へは、九州大学側の渡航許可基準が緩和されたため6名のDD生の派遣が可能となった。

DDプログラム以外のアクティビティについては実渡航は引き続き不可能であったためオンラインでの催行となり、延べ31名が派遣された。

【特に優れた取組】

多くの学生は「実渡航」でのDD取得を目指して本プログラムへ応募しモチベーションを維持しているため、可能な範囲で実渡航派遣を目指した。

そのために当学院と釜山大学から多くの協力を得ながら、結果6人を韓国へ派遣し、現地で必要な履修や研究をまっとうし留学を終え無事帰国したことは、今後のプログラムの活性化にも非常に有意義であった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入れについてはDD取得予定の正規生であれば一定の条件下で来日できたため、上海交通大学からは2名、釜山大学からは1名が実渡航した。

その他のアクティビティ交流については、九大がサマースクールとスプリングセミナーをホスト校となりオンラインで主催した。

前年度からの新型コロナの影響で3カ国ともにプログラム参加者が減っており、また実渡航もできないため、サマースクールの参加人数も減少した。

スプリングセミナーには新しくマレーシア工科大学の学生が10名参加したため、おおよそ例年と並ぶ受入れ参加数となった。

【特に優れた取組】

2021年度もまだほとんどのアクティビティをオンラインで実行せざるを得ない状況であったため、サマースクールやスプリングセミナーでは校外学習などが実施できなかったが、企業やキャンパスアジア卒業生に協力を仰ぎ、オンラインならではのメリットを活かしたプログラムを構成し受入れ参加学生にとっても魅力のあるものとなった。

DD生の実渡航での3名の受入れについてもサポートを万全としたが、実際に接した分、帰国後も卒業までより細やかに心を寄せたフォローが可能であった。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		上海交通大学	認定者数	1	5	5
	認定単位数	10	50	50	50	50
釜山大学校	認定者数	6	5	5	5	5
	認定単位数	60	50	50	50	50
マレーシア工科大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		7	10	11	11	11
年度別認定単位数合計		70	100	110	110	110

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	2	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		上海交通大学	認定者数	1		
	認定単位数	10				
釜山大学校	認定者数	7				
	認定単位数	63				
マレーシア工科大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		8	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		73	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	九州大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム		
	【英文】	Cooperative Educational Program for Fostering Human Resources to Lead Sustainable Development of Recycle-Based Zero-Emission Urban and Architectural Environment in Asia		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	尾崎 明仁	(所属・職名) 大学院人間環境学府・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://suae-casia.arch.kyushu-u.ac.jp/jp/tops>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

<p>本事業における2021年度の取組内容について記入してください。</p>
<p><b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b></p>
<p>①交流プログラムの内容</p> <p>本プログラムは、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない脱炭素社会の構築など、国際的な環境問題を解決するために、グローバルな視点に立脚して俯瞰力・実践力・国際力を備えた都市・建築分野の高度専門家を育成する取組みである。第2モードからの継続事業であるが、協定大学の追加や授業形式の柔軟性などCampus Asia Plusの事業拡大にともない、MOU、学生交流協定、およびDDP協定の見直しを図った。また、国際協働教育を大学院博士後期課程に拡充し、共同で単一の学位を授与するJDPの開設を進めている。国際協働教育の実施に際しては、コロナ禍により学生の実渡航が制限されているため、多くの科目で講義・演習の内容と方法を工夫し、実渡航とオンラインを併用したハイブリッド型授業に対応した。しかし、実渡航の制限は海外現地における「実践学知の経験」という本プログラムの目的を損なうため履修希望の学生が少ない状況である。今後は、多様な授業形式により専門科目を国際的に受講できることや本プログラムの魅力を周知して参加学生の増加に努める。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>参加型の国際ワークショップや実践科目においても一部をオンライン交流学習COILに切り替え、本来は実体験を要する実践学知についても、VR等の三次元データや双方向通信を活用した仮想空間技術により現実の都市・建築空間を模擬体験させ、実際に近い学習効果を得られるように工夫した。</p>
<p>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</p> <p>都市・建築に関する地域社会固有の問題を解決する高度専門家の育成を目的として、九州大学を拠点に同済大学、釜山大学校校、シンガポール国立大学と4大学コンソーシアムを形成している。国際協働教育による国際基準に準拠したローカルな実践的教育を目指して、原理原則に基づく「基礎学知の修得」、および現地で課題を把握・考察して解決策を導出し、応用・実践して学ばせる「実践学知の経験」を実施している。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>各大学教員と第一線の協力教員が協働して、4大学の学生（約60名）を対象にサマースクール（コア科目と実践科目）を開講している。教育内容・方法を教員が相互に確認することで、教育の質の保証と国際協働教育を実施している。また、各大学で独自に専門科目と実習科目を開講し、それらを併せて協働教育プログラムを構成している。</p>
<p>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</p> <p>外国人学生に対しては、国際交流推進機構留学生センターが在籍管理と教育および修学・生活上の指導・助言・サポートを実施している。日本人学生に対しては、国際部留学課および各部署の学生担当部署が留学前の相談に対応するとともに、海外留学に関するホームページ「九州大学留学ガイド」および「Global Gateways Kyushu University」を開設して留学制度や留学先大学に関する情報を発信している。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>本事業では、国内外企業の第一線で活躍する実務者を講師として招聘し、国際実践教育の一環としてキャリアパスフォーラムを開催している。また、国際機構IASURとの連携により、国内外のインターンシップ機関を確保して学生の企業体験を推奨し、国際的なモビリティを推進している。</p>
<p>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</p> <p>本プログラムの発展と普及を目的に、国際協働教育の内容や事業成果を広く国内外に広報する日英併記のホームページを開設している。各大学の紹介、教員情報、受講可能な科目・シラバス、短期・長期の留学プログラム等の様々な情報を掲載するとともに、国際ワークショップやセミナー、同窓会活動などの新着情報を随時発信している。</p>
<p><b>【特に優れた取組】</b></p> <p>2021年に本学で開催したサマースクール（Sustainable Design Camp）には、テキサスA&amp;M（US）と中国文化大学（台湾）から学生と教員の参加があった。本年は忠北大学（韓国）からの参加希望もあり、コンソーシアム以外の大学からも本プログラムへの関心が寄せられ、国際協働教育の先導モデルとして成果を上げている。</p>
<p><b>(2) 特記すべき成果</b></p> <p>大学コンソーシアムの教員が一堂に会する修士論文発表会および所定の審査手続きを経て、本学とのDDP学生として同済大学から3名の2021年修了生を輩出した。また、本学のDDP学生として、新たに同済大学から4名、釜山大学校から2名の学生を受入れた。</p>
<p><b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b></p> <p>本プログラムの目的である「実践学知の経験」を達成するため、遠隔講義や情報通信技術ツールを活用して都市・建築学の教育手法の開発に努め、以下に示すオンライン国際交流学習を行った。</p> <p>講義については、オンライン方式（ZoomやTeams等を用いた双方向講義）、およびオンデマンド方式（収録したデジタルコンテンツの視聴講義）を実施した。デジタルコンテンツは、実渡航前後の講義受講や復習に何度でも使用できるため、実渡航後の学習効果を高めるとともに、学生の学習負担の調整に有用であった。</p> <p>都市・建築分野の特徴である設計演習については、Zoom等の双方向通信と併せて、デジタルホワイトボードに学生の作品を掲出し、オンライン上でリアルタイムに修正点やコメントを直接図示することにより、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育方法を開発した。新型コロナウイルス感染症のため渡日できない留学生向けあるいは海外の教員が参加する演習において試行し、通信環境が整えば設計演習でも問題なく実施できることを確認した。</p> <p>なお、設計等の演習課題においては、課題対象地を実際に訪れることができないという問題が生じるため、360°カメラや3Dスキャナ等を用いて、予め対象地の三次元情報や動画情報などのデジタルデータをサイバースペース（仮想空間）に準備し、XR技術（Extended Reality）を活用して遠隔地からもオンラインで設計演習に参加できるように工夫した。また、現地（国内）の学生と交流先の学生が複数名でチームを構成して課題に取り組むことで、国内学生が詳細な現地調査を支援し、交流先の学生にも最大限の学習効果を発揮する体制を整え、対面と同様の積極的なコミュニケーションにより国際力の養成を図っている。</p> <p>DDPの研究指導については、双方向の遠隔会議システムの活用により、指導教員や交流先の受け入れ教員と当該学生が研究に関する議論を行う場を設け、実渡航期間に限定しない長期間の研究指導・助言が可能な教育方法を実施した。オンライン交流の活用により、修士論文の指導や助言に関して、大学コンソーシアムの教員の他、遠隔地の専門家にも参画してもらう機会を設け、より専門性の高い論文指導が可能となるオンライン国際交流学習COIL（Collaborative Online International Learning）を実行した。</p>

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	22	18	22	18	29	18	29	18	102	72
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	12	5	12	20	44

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	22	18	22	18	29	18	29	18	102	72
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0	10	7
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	10	5	10	5	12	5	12	20	44

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	8	A		A		A		A	
	B	0	B	0	B		B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	0%	114%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(計画)

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入								
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		10	7	27	28	27	28	34	30	34	30	132	123
交流相手国 中国	実渡航			10	6	5	6	5	6	10	6	30	24
	オンライン		5									0	5
	ハイブリッド			2	4	2	4	3	5	3	5	10	18
交流相手国 韓国	実渡航			12	6	12	6	17	6	12	6	53	24
	オンライン	10	2									10	2
	ハイブリッド			2	4	2	4	3	5	3	5	10	18
交流相手国 ASEAN	実渡航				6	5	6	5	6	5	6	15	24
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド			1	2	1	2	1	2	1	2	4	8
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	11	0	11	0	11	17	11	17	44
					8		8		8	10	8	10	32
												0	0
					3		3		3	7	3	7	12

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A 4	A	A	A	A	A	A	A	A	0	4
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A 4	A	A	A	A	A	A	A	A	0	4
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	10	18	5	18	10	18	10	18
実渡航	0	0	10	18	5	18	10	18	10	18
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	7	5	10	5	10	7	12	7	12
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	5	10	5	10	7	12	7	12
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	10	0	12	0	17	0	17	0	17	0
実渡航	0	0	12	0	17	0	17	0	17	0
オンライン	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A 2	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A 6	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航										
オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0									0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	69					69

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2022年2月7日～2月18日に釜山大学校で行われたウィンターワークショップはコロナウィルス流行の影響からオンライン形式で行われたが、本学の後期試験とワークショップの日程が重なったこともあり本学から学生を派遣することができなかった。今回のウィンターワークショップは釜山大学校が米国のシラキュース大学と共同でプログラムを構築しており、開催時期やプログラム実施の時間帯が例年と異なっていた（シラキュース大のスケジュールや米国との時差を優先）ことも参加が困難な要因であった。

【特に優れた取組】

本学からの協定校への学生の派遣や交流を促進するために、2022年3月に本学で開催されたスプリングスクールに釜山大学校の学生をオンラインで招待し学生交流を図った。スプリングスクールでは国内外で活躍する日本人建築家を招き英語でのレクチャー等が行われ、本プログラムの目指す「グローバルな人材育成」の取り組みや本事業の協定校について、多くの学生に周知することができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2021年6月にダブルディグリー修士論文発表会（オンライン）を行い、同済大学の3名の学生が論文発表と査定を経て、修了認定された。また、2021年10月から2022年2月にかけて同済大学4名、釜山大学校2名の学生がプログラムを開始し、オンラインで講義を受講した。2021年8月に本校で開催されたサマースクール、Sustainable Design Campは新型コロナウイルス感染症のため渡日できない海外の学生に向け、対面とオンラインを組み合わせ実施された。

【特に優れた取組】

オンライン方式（ZoomやTeams等を用いた双方向講義）およびオンデマンド方式（収録したデジタルコンテンツの視聴講義）の授業を展開した。この取り組みは留学開始後の学習効果を高めるとともに、学生の学習負担の調整に有用であった。

設計演習科目については、Zoom等の双方向通信と併せ、デジタルホワイトボードを利用しオンライン上でリアルタイムに修正点やコメントを直接図示することにより、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育方法を開発した。参加型の国際ワークショップや実践科目においても一部をオンライン交流学習COILに切り替え、本来は実体験を要する実践学知についても、VR等の三次元データや双方向通信を活用した仮想空間技術により現実の都市・建築空間を模擬体験させ、実際に近い学習効果を得られるように工夫した。

2021年に本学で開催したサマースクール（Sustainable Design Camp）には、テキサスA&M（US）と中国文化大学（台湾）から学生と教員の参加があった。本年は忠北大学（韓国）からの参加希望もあり、コンソーシアム以外の大学からも本プログラムへの関心が寄せられ、国際協働教育の先導モデルとして成果を上げている。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2022年3月14日～3月16日	スプリングスクール	9 人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		釜山大学校	認定者数	1	1	1
	認定単位数	10	10	10	20	20
同済大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	10	10	10	10
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		1	2	2	3	3
年度別認定単位数合計		10	20	20	30	30

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		釜山大学校	認定者数	0		
	認定単位数	0				
同済大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	長崎大学			
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジアの大学間連携による持続的社會基盤整備を支えるグローバル人材育成事業		
	【英文】	Asia Intercollegiate Cooperative Project for Nurturing Global Leaders in Sustainable Infrastructure Development		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	松田 浩	(所属・職名) 大学院工学研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://campus-asia.eng.nagasaki-u.ac.jp/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結し、大学間での協力体制を整備できた。次年度以降、南洋理工大学及びラオス国立大学を加えた5大学間による学術交流協定締結に向けた取り組みを進める。さらに、大学間実務担当者会議(各部会)を開催したことにより、意見交換と討議ができ、さらに実施計画と実施体制を確認することで、円滑な事業運営の意思疎通を図ることができた。学生の試行的派遣・受入を実施することにより、プログラムの課題等を整理し、令和4年度以降の本格的な交流実施に向けて着実な準備を進めることができる。
<b>【特に優れた取組】</b> 交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結し、大学間での協力体制を整備できた。また、次年度以降の5大学間による締結に向けた共通認識を共有できた。さらに、大学間実務担当者会議(各部会)を開催したことにより意見交換と討議ができ、円滑な事業運営の意思疎通を図ることができた。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> 第1回目のインフラ人材育成コンソーシアム運営会議の設立総会をオンラインにて開催し、日本、中国、韓国、シンガポール及びラオスの5大学間の関係者が一堂に揃い、来年度以降の連携体制の強化と今後の円滑な事業運営について共通認識を持った。5大学間はグローバル化に向けた共通認識の下で情報を共有し、相互交流を深化させながら本事業を発展させていくことができる。また、インフラ人材育成コンソーシアム運営会議の下に、本補助事業を円滑に運営・執行していくための実施体制として、「ダブル・ディグリー検討部会」、「ハイブリッド型短期留学検討部会」及び「ASEAN拡張型短期留学検討部会」を配置した。明確な役割分担で質の保証を伴った魅力的な交流プログラムを牽引していくことが期待できる。
<b>【特に優れた取組】</b> これまでの3大学間の交流実績と信頼関係を活かし、本事業の実施体制を迅速に立ち上げることができた。計画通り、インフラ人材育成コンソーシアム運営会議の下に、3つの部会「ダブル・ディグリー検討部会」、「ハイブリッド型短期留学検討部会」及び「ASEAN拡張型短期留学検討部会」を配置した。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 学生の派遣・受入れ体制は、これまでの実績を活用することで、受入れ・派遣の留学生が安心して留学できる体制を整えることができています。本学学内の関係部局及びパートナー大学との連絡体制を強化できる見込みである。また、中国語・韓国語・英語に堪能な事務職員を雇用し、受入学生及び派遣学生滞在中のサポートや学生の履修指導、語学研修、TAの配置、学内外での諸手続き、カウンセリング体制、情報提供等、引き続ききめ細かい支援を提供し、満足度の高い学生交流プログラムを提供できる。本事業の交流プログラムに参加した学生は、留学生及び派遣した本学学生とともに、十分な情報共有及びサポート体制によって、日中韓の多様な文化、インフラ整備やインフラの維持管理の基本的な考え方の相違等に対して理解を深めることが期待できる。
<b>【特に優れた取組】</b> 山東大学と第2モードからの連携体制により、ダブル・ディグリープログラム(博士後期課程)が実現でき、学生を受入れることができた。さらに、韓国成均館大学校ともダブル・ディグリープログラム(博士後期課程)の協定を締結することができた。これは長崎大学でも初の取組みであり、その推進により長崎大学の国際化に大きく寄与できる。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 本事業は国内外への情報提供及び成果普及を行うために、専用のHP(英語・日本語)および紹介動画(英語・日本語)、パンフレット(日本語)、ロゴマークを作成した。用途にあわせて、多言語・他ツールによる本事業の情報公開を行った。各ツールを通して、本事業の目的や概要、各大学の紹介から学生交流プログラムに関する基本的な情報、経済支援の内容、入試情報、単位認定、卒業資格要件、入学後の生活・教育などの情報を提供・公開し、幅広く事業の普及を図るとともに長崎大学の情報発信力の強化につなげることができた。紹介動画は大学HP、YouTubeにも掲載され、パンフレットは関係大学に郵送して、学内のみならず他大学関係者や関係企業等へ発信し、事業成果の普及にも努めた。さらに、留学希望の学生に対して留学生活の具体的なイメージを提供することが可能となった。
<b>【特に優れた取組】</b> 専用HP、紹介動画、パンフレット及びロゴマークを作成し、多言語・他ツールによる本事業の目的や概要、各大学の紹介から学生交流プログラムに関する基本的な情報、経済支援の内容、入試情報、単位認定、入学後の生活などの情報を提供・公開し、幅広く事業の普及を図るとともに、他大学関係者や関係企業等へ発信し、事業成果の普及にも努めた。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
第1回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議をオンラインで開催し、これまでの日中韓大学での連携実績をもとに各大学の関係者と事業内容等の検討を行い、学術交流協定及び学生交流に関する覚書を新たに締結した。また、次年度以降、南洋理工大学及びラオス国立大学を加えた5大学間による締結に向けた取り組みを確認した。さらに、大学間実務担当者会議(各部会)を開催し、今後のプログラム実施内容についての意見交換と討議を行い、実施計画・体制を確認し円滑な事業運営の意思疎通を図ることができた。また、学生交流プログラムでは、これまでの日中韓大学の連携実績により、試行的に「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施、3大学から計29名の学生が参加した。博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、2021年度に制度設計を完了し2022年度に受入れを開始する予定であったが、予定を半年早めて、2021年度中に山東大学から1名の博士後期課程のダブル・ディグリー学生の受入れを実現することができた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
<b>【工夫点】</b> 新型コロナウイルス感染症の影響により、大学間実務担当者会議や、学位論文の研究指導、学生交流プログラムの対面実施が困難なために、オンデマンド教材の作成や機材の設置により、オンラインで実施する体制を整えた。これにより、オンラインによる5大学の担当者との検討会議及び「第1回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議」「大学間実務担当者会議」、「日中韓オンライン学生交流プログラム」をスムーズに実施することができ、参加学生に安心したプログラムの提供が可能となった。 新型コロナ感染症拡大の状況が日々変化中、2022年度から実施予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な運用として、2月8日から2月28日の10日間、「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施し、計29名の学生が参加した。プログラムはすべてオンライン形式で行い、英語による講義が計26コマ行われた。演習の講義や語学の講義、学生グループワーク、成果発表会は実際に学生同士や学生教員同士によるコミュニケーションがメインのため、事前に講義資料の配布やグループワーク課題の提示、小グループ活動用学習アプリの使用法の指導、講義後のグループ個別の相談等を実施し、次年度に開催するオンラインプログラムに係わる諸課題についても把握することができた。
<b>【改善点】</b> 演習の講義については、事前の課題や資料提供が不十分な部分が見られる。講義の一部をオンデマンド化して、講義後でも学習できるように改善をはかる。学生グループワークについては、Zoomを利用したグループワークに加え、視覚的にグループワークができるmiroを利用した。その結果、音声・会話による議論よりも文章やコメントによるディスカッションが増加した。意思疎通の面では効果的であったが、より活発な交流を促すために、同窓生による支援やファシリテーター導入などを検討する。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	1	8	16	10	25	12	25	11	26	41	93
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	1	3	4	2	5	4	5	3	6	12	21
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20	29	72

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	1	8	16	10	25	12	25	11	26	41	93
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	1	3	4	2	5	4	5	3	6	12	21
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20	29	72

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	6	24	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	6	A	24	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	#VALUE!	2400%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	6	24	0	0	0	0	0	0	0	0	6	24			
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	1	A		A		A		A		0	1
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	6	A	23	A		A		A		A		6	23
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0								0	0			

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	1	8	16	10	25	11	25	10	26
実渡航	0	1	3	4	2	5	3	5	2	6
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	5	12	8	20	8	20	8	20
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 1 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	6	23	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 6 B 0	A 23 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	97					97

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本事業は2021年度から2022年度までの2年間で事業立ち上げ期とし、2023年度から2025年度の3年間で事業充実期とし、学生を派遣する計画である。新型コロナウイルス感染症パンデミックを考慮し、学生の派遣に際しては安全を最優先としている。2021年度は、学生派遣数はゼロの計画であったが、2022年度に実施する予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な取組として、「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施することができ、長崎大学から6名の学生を派遣することができた。また、インフラ人材育成コンソーシアム運営会議では、5年間の学生交流人数の計画を意見交換し、共通認識を行い、計画どおりに学生を派遣する所存である。さらに、2021年度中に、学生派遣プログラムである「日中韓ダブル・ディグリープログラム」「ハイブリッド型短期留学プログラム」に関する学内説明会を複数回開催し、広く情報を周知し、留学に対して意欲的な学生を呼び水として確保することができた。

【特に優れた取組】

2022年度から実施予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な運用として、2月8日から2月28日の10日間、山東大学、成均館大学校及び長崎大学によって「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施し、工学研究科において学内説明会を開催し、HP等で学生募集を行い、6名の学生が参加することができた。新型コロナウイルス感染症拡大により、すべてオンライン形式で開催した。プログラムでは、インフラ技術、日中韓の文化・歴史、参加学生の母国語について、英語による講義が計26コマ行われた。さらに、各国学生が混合でのグループワークを実施し、学生によるグループワークの成果発表、関係教職員も含めたフリートークを実施し、各大学の教員により講評された。派遣学生にアンケート調査を行った結果、次年度のプログラムにも興味があると回答された。次年度に開催するオンラインプログラムに係わる諸課題についても把握することができた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

本事業は2021年度から2022年度までの2年間で事業立ち上げ期とし、2023年度から2025年度の3年間で事業充実期とし、学生を受入れる計画である。新型コロナウイルス感染症パンデミックを考慮し、学生の受入に際しては安全を最優先としている。山東大学と第2モードからの連携体制により、2021年度12月に2022年度入学の博士前期課程の入試を実施した。その結果、山東大学から3名の学生が合格し、2022年9月から受入れる予定である。また、2020年9月に受入れを行い、2021年8月に帰国した山東大学の4名のダブル・ディグリー学生の修士論文に関する試問会を2022年2月に実施した。試問会はzoom会議システムを利用して、山東大学の指導教員も長崎大学での論文審査委員会に参加し、発表学生への質疑応答も行われた。さらに試問会終了後、コース担当教員による判定会議を開催し、修士論文の可否判定を長崎大学の教員と一緒にいった。さらに、博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、2021年度に制度設計を完了し、2022年度に受入れを開始する予定であったが、予定を半年間早めて、2021年度中に山東大学から1名の博士後期課程のダブル・ディグリー学生の受入れを実現することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で入国制限を受けて来日できていない期間中は、指導教授がオンラインシステムを活用して研究計画の作成と研究指導を行っていた。2022年度に実施する予定の「ハイブリッド型短期留学プログラム」の試行的な取組として、「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施することができ、山東大学から17名と成均館大学校から6名の学生を受入れることができた。次年度に開催するオンラインプログラムに係わる諸課題についても把握することができた。

【特に優れた取組】

山東大学との第2モードからの連携体制により、ダブル・ディグリープログラム（博士前期課程）では3名の学生を、さらにダブル・ディグリープログラム（博士後期課程）が実現でき、1名の学生を受入れることができた。特に博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、長崎大学全体及び大学院工学研究科においても、初めての取組みであり、その推進により長崎大学の国際化に大きく寄与している。新型コロナウイルス感染拡大の影響で実渡航ができない中、事務局に配置した留学生対応の経験が豊富なネイティブの語学国際コーディネーターが対応を行い、受入れる体制を整えている。これまでのダブル・ディグリープログラムの学生の多くは、自国と留学先の大学院博士後期課程への進学や大手企業への就職等を決めており、極めて優秀な人材育成が実現できている。国際共同学位プログラムとして国際的に活躍できる人材育成の役割を十分に果たしていると考えられる。また、相手大学の指導教員を学位審査員として参加させることにより、教育の質が保証されている。さらにコンソーシアム運営会議及び大学間担当会議においては、ダブル・ディグリー制度の課題点を三大学で話し合い改善方法について議論するなど、継続的な改善を実施することが合意された。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

#### (4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	1	2	3	2	4	2	4	2	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
山東大学	認定者数	0	6	9	10	9
	認定単位数	0	30	39	43	39
成均館大学校	認定者数	0	7	9	9	9
	認定単位数	0	34	39	39	39
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	13	18	19	18
年度別認定単位数合計		0	64	78	82	78

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	1								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
山東大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
成均館大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	早稲田大学		
タイプ	タイプA①	※プルダウンから、タイプを選択してください。	
事業名	【和文】	文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム	
	【英文】	Social Innovation Program for Promoting Dialogue of Civilizations and Fostering Cultural Intelligence in Contemporary Asian Societies	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	早田 宰	(所属・職名) 早稲田大学社会科学総合学術院・学術院長
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.waseda.jp/campusasia-mode3/>

**1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】**

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 本事業のキックオフを記念して早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」を実施し、協力3大学（北京大学・高麗大学校・南洋理工大学）の学生・教職員はじめ61名が参加した。令和4年秋からは実渡航を伴う学生の受入・派遣の開始を想定しており、プログラムの理念とミッションを理解した派遣予定者8名、受入予定者4名を選出した。定期的に4大学でのオンライン協議の場を設け、学生の中長期派遣交流だけでは終わらない本事業ならではの共同教育モデルと教育手法の検討を開始している。
<b>【特に優れた取組】</b> 早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、協力3大学（北京大学・高麗大学校・南洋理工大学）の学生・教職員はじめ61名（事前登録97名）が参加した。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> 定期的に4大学でのオンライン協議の場を設け、学生の中長期派遣交流だけでは終わらない本事業ならではの共同教育モデルと教育手法の検討を開始した。本事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、過去に大学の世界展開力強化事業のプログラムコーディネーション経験のある専任教員の採用を大学独自予算にて進めた。令和4年秋以降の学生の実渡航を伴う具体的な交流開始に向け、質保証の観点で、カリキュラムに紐づいたキャンパスアジアコア科目の設置を進めており、4大学協働での教育体系の構築を引き続き進めていく。
<b>【特に優れた取組】</b> 事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、過去に大学の世界展開力強化事業のプログラムコーディネーション経験のある専任教員の採用を大学独自予算にて進めた。令和4年秋以降の学生の実渡航を伴う具体的な交流開始に向け、引き続き4大学協働での質の保証を伴った教育体系の構築を進めていく。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 専属の英語能力と複数大学での留学業務経験のある嘱託職員を雇用している。学生受入について、留学生のデータを留学センターが管理しており、在留資格変更や期間更新等のサポートを統括しつつキャンパス毎の担当職員がサポートを行っている。入学時にはオリエンテーションを開催している。成績不振に陥った学生については、適切な修学指導を行い、不法滞在者を出さない措置を講じている。学生派遣について、海外渡航する全学生に対して危機管理オリエンテーションへの参加と海外旅行保険契約を義務付けている。ビザの取得や留学生活に伴う実務面に関しても、海外オフィスを含めたサポート体制を構築している。
<b>【特に優れた取組】</b> 本事業専属の英語能力と複数大学での留学業務経験のある嘱託職員を雇用し、海外相手先大学と密な連携をとりながらサポートを行っている。外国人学生の受入れ、学生の海外派遣いずれにおいても、本学留学センターは豊富な対応実績があり、海外オフィスや海外相手大学と連携を取りながらサポートを行っている。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 令和4年度からの実渡航を伴う学生交流開始に向け、本事業推進を目的としたHP（日英）と掲出素材の作成を進め、コンテンツの充実化を図った。今後本HPでは、優秀な学生の確保やプログラム実績の公開だけでなく、本事業に参加した学生の実績や成果を公開することも予定している（ <a href="https://www.waseda.jp/campusasia-mode3/">https://www.waseda.jp/campusasia-mode3/</a> ）。早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、本学の教育・研究や事業概要についてを海外大学関係者に発信した。
<b>【特に優れた取組】</b> 本事業推進を目的としたHP（日英）と掲出素材の作成を進め、コンテンツの充実化を図った。今後本HPでは、優秀な学生の確保やプログラム実績の公開だけでなく、本事業に参加した学生の実績や成果を公開することも予定している。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」では、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、参加者とのディスカッション等、双方向性をもったプログラムを実施した。本取り組みにより、今後展開するプログラムの趣旨や、4大学で育成するアジア社会に良き変革を起こすことができる人材の育成目標や理念を共同で確認する機会とすることができた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生受入・派遣を実施することができなかった。一方で、本事業のキックオフを記念して早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、協力3大学（北京大学・高麗大学校・南洋理工大学）の学生・教職員はじめ61名（事前登録97名）が参加した。本オンラインシンポジウムでは、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、オンラインによる参加者とのディスカッション等、双方向性をもったプログラムを実施した。今後もオンラインでの取り組みは定期的に行うとともに、時差の影響が少ないメリットを活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画している。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	30	50	60	55	70	75	80	85	90	275	330
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	20	10	20	10	30	10	30	10	100	40
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	30	50	60	55	70	75	80	85	90	275	330
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	20	10	20	10	30	10	30	10	100	40
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10	40	40

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(計画)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	10	30	50	60	45	70	55	80	65	90	225	330	
交流相手国 中国	実渡航	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	16	16
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4	16	16
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	12	12
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	オンライン	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70	135	250
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	10	0	20	0	20	0	50	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航	0	0	0	0	10	0	20	0	20	0	50	0

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
交流相手国 中国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0									0	0		

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
 B もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	10	30	30	50	35	60	45	70	55	80
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	10	30	20	40	25	50	35	60	45	70
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	10	10	10	10	10	10	10	10
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	10	0	10	0	20	0	20	0
	オンライン	0	0	10	0	10	0	20	0	20	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0									0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	0					0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生派遣は行わなかった。一方で、本事業のキックオフを記念して早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、本学から41名の学生が参加した。本オンラインシンポジウムでは、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、海外相手大学学生とのディスカッション等を実施し、双方向性をもったプログラムを実施することができた。今後もオンラインでの取り組みは定期的開催するとともに、時差の影響が少ないメリットを活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画している。令和4年秋からは実渡航を伴う学生第一期生の派遣を予定しており、プログラムの理念とミッションを理解した学生8名を選出し、海外相手大学と連携を取りながら派遣手続きを進めている。

【特に優れた取組】

新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置により実渡航を伴う交流を実現することはできなかったが、プログラムの理念とミッションを理解した未来のソーシャルイノベーターとなり得る人材を今後4大学協働で育成すべく、早稲田大学主導による「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施した。本事業採択以降、実渡航を伴う交流が停滞している中で、4大学間で今後進めるべくプログラムの共通理念を確認する機会になっただけでなく、本学学生が海外相手大学の学生とディスカッションする場面もあり、今後の4大学連携の素地になったと言える。各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画しているが本事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、令和3年度に北米大学との協働によるCOIL型授業の展開実績があり、本学学生にも高い満足度を得ている。本取り組みは、本学学生の留学事前教育や留学後の語学運用能力維持向上にも寄与できると考えている。キャンパスアジアの枠組みのメリットのひとつである時差の影響が少ない実態を活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開の検討を開始している。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置に鑑み、渡航を伴う形での学生受入は行わなかった。一方で、本事業のキックオフを記念して早稲田大学主催の「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施し、海外相手大学より9名の学生が参加した。本オンラインシンポジウムでは、事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部の教員4名によるプレゼンテーションの他、海外相手大学学生とのディスカッション等を実施し、双方向性をもったプログラムを実施することができた。今後もオンラインでの取り組みは定期的開催するとともに、時差の影響が少ないメリットを活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画している。令和4年秋からは実渡航を伴う学生第一期生の受入を予定しており、プログラムの理念とミッションを理解した学生4名の受入れ手続きを、海外相手大学と連携を取りながら進めている。

【特に優れた取組】

新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置により実渡航を伴う交流を実現することはできなかったが、プログラムの理念とミッションを理解した未来のソーシャルイノベーターとなり得る人材を今後4大学協働で育成すべく、早稲田大学主導による「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施した。本事業採択以降、実渡航を伴う交流が停滞している中で、4大学間で今後進めるべくプログラムの共通理念を確認する機会になっただけでなく、海外相手大学の学生にとっては本学教員や学生とディスカッションする機会となり、今後の4大学連携の素地になったと言える。各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画しているが本事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、令和3年度に北米大学との協働によるCOIL型授業の展開実績があり、相手先大学学生にも高い満足度を得ている。キャンパスアジアの枠組みのメリットのひとつである時差の影響が少ない実態を活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開の検討を開始している。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2022/3/30	FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium	50 人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：早稲田大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	0	4	4	4	4
	認定単位数	0	100	100	100	100
高麗大学校	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	75	75	75	75
南洋理工大学	認定者数	0	3	3	3	3
	認定単位数	0	75	75	75	75
年度別認定者数合計		0	10	10	10	10
年度別認定単位数合計		0	250	250	250	250

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：早稲田大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
高麗大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
南洋理工大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○立命館大学、立命館アジア太平洋大学		
タイプ	タイプA②	※プルダウンから、タイプを選択してください。	
事業名	【和文】	東アジアグローバルリーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	
	【英文】	Korea-China-Japan Joint Campus program to foster global leaders for East Asia	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	中川 優子	(所属・職名) 文学部 学部長
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.ritsumei.ac.jp/campusasia/>

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 【現段階の課題】韓国実渡航派遣の実現、中国全面オンライン留学の継続等により、コロナ禍での辞退者増に歯止めがなかった。全学校友会への登録、修了年度ごとの幹事配置等、同窓会組織の再整備を進めているが、遠隔地・海外在住者との連携、在学生のキャリア支援との接続など、一層の活性化案を講じている。 【今後の展望】学生のヒアリングに加え、3大学共通学生アンケートを通じて、プログラム全体の問題点や改善点を精査して引き続き辞退者の軽減に努める。文学部校友会との定期総会同日開催など連携強化に努める。
【特に優れた取組】 日中韓共修による演習科目(1科目×3大学)をすべての日中韓プログラム生に1ヵ月にわたってオンライン公開し、移動キャンパスに向けた先行学習を実施した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【現段階の課題】AGコースの開始(R6年度)を前に、APUが有するASEAN諸国大学とのネットワーク・リソースと接続する方策を模索する。初年次教育での日中韓共同運営授業の導入による、派遣前教育でのさらなる連携強化を検討する。 【今後の展望】2022年度に設置する派遣前教育作業部会で協議のうえ、試験的導入を図る。また1年留学のIAコース生(APU生:R5年度～)の派遣前教育への適用も考慮する。
【特に優れた取組】 実渡航留学時のコロナ陽性者発生にあたって、日中韓教職員によるSNSを含めた緊密な連携が危機管理・対応に即座に活かされ、罹患学生も含めた学生間の安全確保・不安解消に対応できた。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【現段階の課題】国内外でのインターンシップ、キャリアセミナー等のキャリア教育に加え、大学院進学を含む進路指導を充実させる。学生自ら学びの場を創出する交流団体を結成し、主体性の養成を促進する。 【今後の展望】本学キャリアオフィス、文学研究科大学院担当と連携し、情報を円滑に伝達できるようにする。中韓学生の受入を念頭に、相互学習や学生交流を学生主体の企画体制へと移行させる準備を進めている。
【特に優れた取組】 外務省渡航レベル2での実渡航に向けた全学的な取り組みのもと、派遣先大学と協力して細部にわたる項目をチェックするとともに、保健センター、危機管理会社と連携して安心・安全な渡航体制を整えた。加えて、最新の現地情報を盛り込んだ「韓国渡航ガイドブック」を独自に作成して渡航学生に配布した。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【現段階の課題】アフターコロナを見据えた国際的学びの効果的な普及方法を検討している。 【今後の展望】本学のグローバルコモンズである「Beyond Borders Plaza」との連携や、附属高等学校に加えて附属小学校との連携を図るなど、さらなる国際化を検討している。
【特に優れた取組】 附属校の高校生へのアプローチをオンラインで実施した。現役プログラム生や修了生の協力のもと、学生目線に立ったプログラム紹介動画を製作し、公式WEBサイトで公開している。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
『多言語学習ハンドブック』の刊行と成果公開 プログラム生のみならず、複数言語学習者に広く資するべく、プログラム生の経験や、言語教育関係者の知見をまとめた『多言語学習ハンドブック』を令和4年4月に刊行した。複数言語教育研究者や現役プログラム生に配布するとともに、公式WEBサイトに掲載し、成果を公表した。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
(1)3大学の演習科目を1ヵ月にわたって1年次以上のすべての日中韓学生にオンライン公開し、移動キャンパスでの学びを体験できる場とした。(2)本学での3ヵ国共修授業をオン/オフラインのハイブリッドで実施し、同時的な小集団討論を実現した。(3)すべての3ヵ国運営協議体をオンライン会議で実施した。(4)学年を越えた学生主体のオンライン交流会を定期的で開催し、国際的学びのモチベーション維持を図った。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	61	69	114	105	116	113	112	120	112	120	515	527
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80	334	334
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40	181	193
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	61	69	114	105	116	113	112	120	112	120	515	527
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	32	36	76	65	78	73	74	80	74	80	334	334
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	29	33	38	40	38	40	38	40	38	40	181	193
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	72	93	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	14	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	20	A	62	A	A	A	A	A	A
	B	38	B	31	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	118%	135%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	72	93	0	0	0	0	0	0	0	0	72	93			
交流相手国 中国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	13	A	41	A		A		A		A		13	41
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 韓国	実渡航	14	0								14	0			
	オンライン	A	1	A	21	A		A		A		A		1	21
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	6	A	0	A		A		A		A		6	0
		B	38	B	31	B		B		B		B		38	31
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0									0	0			
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	実渡航	0	0								0	0			
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
ハイブリッド	0	0								0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	32	36	76	65	78	73	74	80	74
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	29	33	38	40	38	40	38	40	38
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	15	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	15	A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	34	31	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	20	A	31	A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	38	47	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	19	A	16	A		A		A	
		B	19	B	31	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A	
		B	0	B	0	B		B		B	
	ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	14	0										14

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	151					151

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

韓国派遣は外務省渡航レベル2のなか、安心・安全な留学に向けた全学的取り組みのもと、オンライン留学希望の1名を除き、ほぼ計画通り実渡航が実現できた(交流形態：③実渡航)。中国へは派遣先大学での留学生受入停止が継続したため、実渡航数はゼロとなったが、全面的なオンライン留学を実現することで「交流形態：③オンラインA」の派遣となった。また、一度も実渡航がかなわないまま留学期間(2年間)を終えることもあり、中国派遣予定であった3年次生には希望者を募り、韓国実渡航留学へと切り替えた。これらの学生対応として、派遣先大学での単位既修得科目との重複履修を避けるため、事務局間の密な情報共有・協議を行い、必要な修得単位数を確保することができた。

コロナ禍の影響もあり、辞退者3名、休学者1名(2022年度復学)が出たが、辞退後も「交流形態：③オンラインA」として本学文学部生に開放しているプログラム科目を受講し、国際的な学びを継続した。

オンライン授業の常態化を活用し、既存科目にオンラインによる日中韓共修を取り入れた。それにより、「交流形態：①オンラインA」の場を広げ、また学生交流をオンライン化することで交流学生数を増やした。

今後も、各種説明会や広報・成果公開に努め、1年次生確保に尽力するとともに、プログラム外も含めた交流を拡充する計画である。

派遣手続きは、マニュアルが整備されており、安定的に進行している。

【特に優れた取組】

派遣先大学の協力のもと、韓国政府の感染症予防政策や感染時の対応、最新の現地情報などを盛り込んだ「韓国渡航ガイドブック」をプログラム独自で作成・配布し、渡航前ガイダンスで実渡航学生に周知徹底した。それにより海外でのコロナ感染への不安の軽減、安心・安全な留学プログラムの提供に努めた。なお、実渡航拒否によるプログラム辞退者はいなかった。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入手続きはマニュアルが整備されており、大学全体でスムーズな処理がされ、受け入れ人数も安定的に推移している。

韓国では兵役かつコロナ禍での休学が発生しており、休復学の際にイレギュラーな対応や人数のアンバランスが生じているが、年度をまたいで受入を予定している。定期的実施してきた附属校生との交流をオンライン実施し、受入生の約半数が参加した(交流形態：④オンラインA)。また、既存のプログラム科目にオンラインによる日中韓共修を取り入れた(交流形態：①オンラインA)。

図書館、国際commons等の大学施設のオンライン利用、LMSシステムや履修にかかわる各種ガイダンスをオンラインで実施し、未渡航での受講に支障をきたさないようサポート体制を整えている。

【特に優れた取組】

プログラム独自の「オンライン講義受講マニュアル」を日中韓3ヵ国語で制作し、中韓プログラム生に配布・周知し、オンライン講義受講の便宜を図った。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年10月～2022年1月	外国語コミュニケーションルーム(本学Beyond Borders Plaza主催)	12 人
2021年10月～2022年1月	日本語学習相談(本学Beyond Borders Plaza主催)	10 人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
アジアグローバルコース				3	3
インテンシブアジアコース			2	2	2
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
アジアグローバルコース	0				
インテンシブアジアコース	0				
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

アジアグローバルコースでは、23年度に移動キャンパス1周目に参加する学生(22年度入学生)から募集・選抜が始まるため、派遣は24年度から(3年次派遣)、インテンシブアジアコースでは、22年度に募集・選抜を開始するため、派遣は23年度から(2年次派遣)となる。アジアグローバル生第1期となる22年度入学のプログラム生に対しては、プログラムガイダンスや派遣前教育でコース内容を周知し、コースプログラムへの誘導を図っている。また、2度にわたるインテンシブアジアコース募集説明会を実施し、定員を上回る応募者を集めている。

【特に優れた取組】オンラインを利用したインテンシブアジアコース募集説明会には、実渡航中のプログラム生も参加し、派遣先大学での学習・生活・学生交流の3つを軸にした実体験について参加希望者に案内することで、プログラムの学びの理解度を高めた。

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：立命館大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	16	38	37	35	35
	認定単位数	240	570	555	525	525
東西大学校	認定者数	16	38	37	32	35
	認定単位数	240	570	555	525	525
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		32	76	74	67	70
年度別認定単位数合計		480	1140	1110	1050	1050

2. 国内連携大学 【大学名：立命館アジア太平洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	0	0	2	2	2
	認定単位数	0	0	28	28	28
東西大学校	認定者数	0	0	2	2	2
	認定単位数	0	0	28	28	28
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	4	4	4
年度別認定単位数合計		0	0	56	56	56

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	2	2								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：立命館大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	14				
	認定単位数	163				
東西大学校	認定者数	14				
	認定単位数	168				
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		28	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		331	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：立命館アジア太平洋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
広東外語外貿大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
東西大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

# 大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）

## 令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東北大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成		
	【英文】	Multimodal Global Leaders Development through Asian-Model Dentistry Consortium		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	高橋 信博	(所属・職名) 歯学研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.dent.tohoku.ac.jp/english/caind/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

### (1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

#### ①交流プログラムの内容

2021年12月には海外連携校と本事業に関するオンライン会議を行い、当該年度の交流について決定した。翌2022年1月に実施したオンライン短期学生交流プログラムにはアジア太平洋地域の連携校から50名を超える学生の参加があり、日本人学生も4名参加した。さらに、同月に開催したキックオフシンポジウムには12カ国・地域から延べ300人以上が参加し、歯学教育・研究について幅広い情報交換ができ、国際共同教育・研究の推進、本事業の社会発信強化に寄与した。3月には四川大学からダブル・ディグリー（DD）学生2名を受け入れ、アフターコロナの実渡航による留学交流再開の一步となった。また、同月に連携校とデジタルデンティストリーに関するオンラインハンズオンセミナーを開催し、本学日本人学生20名が参加した。インドネシア大学とのDD協定についても2022年度中の締結を目指し検討を始めた。締結後は中韓泰尼全ての連携校とのダブルディグリープログラムの設置が完成し、全ての連携校との国際共同教育プログラムの実施が可能となるため、よりダイナミックで効果的かつ質の高い交流プログラムの開発を目指している。

#### 【特に優れた取組】

本事業採択直後キックオフシンポジウムを開催し、いち早く本事業の社会発信を行った。さらに四川大学からハイブリッドでDD学生を受け入れ、実渡航による交流を実現した。また、オンラインを活用し、滞ることなく学生短期交流を実施した。インドネシア大学とのDD協定締結も進み、本事業全ての連携校との国際共同教育の実施が可能となる。

#### ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

実施体制を確定するとともに、文理融合カリキュラム検討委員会を設置し、新設大学院コースの設定およびカリキュラム編成を行った。また、ガイドラインに厳密に従い、インドネシア大学とのDDプログラム設計を行い、QE（博士論文基礎力審査）の導入など、質の保証に終始した。さらに、ハイブリッド交流プログラムを編成し、学生が気軽に参加できる環境を整備した。また、事前体験プログラムやフォローアップを徹底するとともに、留学効果の評価にBEVIテストを投入するなど、教育効果向上および質の保証に寄与した。

#### 【特に優れた取組】

文理融合カリキュラム検討委員会を設置し、次年度からの新設大学院コースを設定した。カリキュラムにおいては、本学文学研究科や経済学研究科の協力のもと、健康観や医療経済等に関する複数の文系授業を新規開講し文理融合を具現化できた。今後は、歯学研究科教員へのFD研修を実施し、質の向上に努

### ③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業推進室を設置し、専属教職員の雇用によりサポート体制を強化した。本事業キックオフシンポジウムおよび連携校との短期学生交流プログラムをオンラインで実施し、外国人学生計50名以上、日本人学生計24名が参加した。これにより本事業の周知が強化され、留学意欲促進の機会となった。さらに、ニューノーマル期のオンライン教育プラットフォームを強化するため専用会議室を設置した。今後は、歯学部のカリキュラムを考慮し、質の高いオンライン・ハイブリッド留学プログラムの開発も目指す。

#### 【特に優れた取組】

対面留学を促進するためのオンラインによるシンポジウムおよび交流プログラムを開催し、外国人学生計50名以上、日本人学生計24名が参加した。さらに、最先端の設備を有するオンライン会議・授業用の会議室を設置し、より質の高いハイブリッドの授業提供を計画している。

### ④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2022年3月にキャンパス・アジアプラスプログラムの専用ホームページを開設し、情報公開を行うとともに、歯学研究科留学生協会と連携し、SNSを活用した社会発信を強化した。さらに、3月には今年度事業について内部評価を実施し、本取組みの進捗・成果の確認と評価を行った。また、事業の進捗・成果を確認するとともに次年度事業の検討・具体化を可能とした。今後は、日本人学生による広報グループを作り、学生目線の情報発信に努める。

#### 【特に優れた取組】

協定校学生を対象としたプログラム広報および情報提供のために、キャンパス・アジアプラスプログラム専用のホームページを開設した。また、本研究科の魅力発信のためにPRビデオ制作も行った。今後は、学生による広報グループを設定し、学生目線の情報発信に努める。

## (2) 特記すべき成果

2022年1月開催のキックオフシンポジウムには12カ国・地域から延べ300人以上が参加し、歯学教育・研究について幅広い情報交換ができ、国際共同教育・研究の推進、本事業の社会発信強化に寄与した。また、オンラインによる教育が難しいとされている技能教育において、IT技術を用い、デジタル歯科に関するハンズオンセミナーをオンラインで実施した。さらに、歯学分野で世界初の試みとして、本学文学研究科や経済学研究科と連携し、複数の文系授業を新規開講し、文理融合カリキュラムを有した新設大学院コースを設定した。最終的には、全ての連携校でマルチモーダルな人材育成を目指すカリキュラムの設定を計画している。

## (3) オンラインを活用した工夫・改善点

質の高いオンライン会議・授業のために、最先端機器を配備したオンライン会議・授業専用の会議室を設置し、学生の受入・派遣の環境整備に努めた。また、オンライン交流の魅力を上げるために、学生間のインタラクティブな交流ができるプログラム構成に徹底した。これまで対面でしか実施できなかったハンズオンセミナーやリアルな実習をIT技術を活用しオンラインで実施することができ、ハイブリッド留学プログラムの可能性を見出すことができた。今後は、現在取り組んでいる歯学教育DX事業と本事業との連携により更なる魅力的でバリエーションに富んだハイブリッドプログラムの編成に努める。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について													
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)													
●申請時の計画調書記載人数													
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅱ)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	10	10	20	20	20	20	20	20	20	20	20	90	90
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	0	0	5	8	10	10	15	15	15	15	45	48	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20	
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	3	3	5	4	5	5	5	5	5	5	23	22	
●海外相手大学追加調書分													
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅱ)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
●合計人数													
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅱ)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	10	10	20	20	20	20	20	20	20	20	90	90	
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	0	0	5	8	10	10	15	15	15	15	45	48	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	7	7	10	8	5	5	0	0	0	0	22	20	
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	3	3	5	4	5	5	5	5	5	5	23	22	
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)													
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅱ)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度				
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入			
	24	15	0	0	0	0	0	0	0	0			
実際に渡航した学生(以下「実渡航」)	0	0											
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生(以下「オンライン」)	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A			
	B	24	B	13	B	B	B	B	B	B			
実渡航とオンライン受講を行った学生(以下「ハイブリッド」)	0	2											
達成目標に対する実績の割合	240%	150%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%			
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの												
B	もともとオンライン実施で準備していたもの												



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計					
		派遣	受入	派遣	受入												
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		24	13	0	0	0	0	0	0	0	0	24	13				
交流相手国中国	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0	
	ハイブリッド	0	0									0	0				
	交流相手国韓国	実渡航	0	0									0	0			
		オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0
			B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0
		ハイブリッド	0	0									0	0			
	交流相手国ASEAN	実渡航	0	0									0	0			
		オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0
			B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0
		ハイブリッド	0	0									0	0			
交流相手国中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0	
	ハイブリッド	0	0									0	0				
交流相手国中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0	
	ハイブリッド	0	0									0	0				
交流相手国韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0	
	ハイブリッド	0	0									0	0				
交流相手国中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	24	B	13	B		B		B		B		B	24	13	
	ハイブリッド	0	0		2							0	2				
自己負担又は大学負担等による交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	実渡航	0	0									0	0				
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		A	0	0	
		B	0	B	0	B		B		B		B		B	0	0	
	ハイブリッド	0	0									0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	2	3	2	4	3	5	5	5	5	5
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	5	5	10	8	12	12	12	12	12	12
実渡航	0	0	0	0	7	7	12	12	12	12
オンライン	5	5	10	8	5	5	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	3	2	8	8	5	3	3	3	3	3
実渡航	0	0	5	8	3	3	3	3	3	3
オンライン	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	24		13		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	24	B	13	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		0		0		0			
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	0		0		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		0		0		0			
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	0		2		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		2		0		0			
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0		0		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		0		0		0			
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	0		0		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		0		0		0			
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	0		0		0		0		0		
	実渡航		0		0		0		0		
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド		0		0		0		0			

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	2									0	2

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について(実績) ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

- ・オンライン交流プログラム：歯学研究科より24名の参加があった。
- ・危機管理システムの強化：教務係と国際連携推進部門の連携の下、緊急連絡網を強化し、危機管理マニュアルを拡充するとともに連携校担当者との連携を強化し、プログラムの円滑な実施を可能とした。
- ・事業推進室の設置および国際連携推進部門機能充実による海外派遣前後における研修、フォローアップの徹底：担当教職員の採用拡充によりサポート機能を強化している。
- ・日本人学生留学増を目指し、留学に対する学生の意識調査を開始した。
- ・ニューノーマル期の教育および留学交流に対応できるオンライン教育プラットフォームを強化するため、専用会議室を設置した。
- ・派遣先での口腔保健行政でのインターンシッププログラムを構築した。
- ・グローバルラーニングセンターの支援による語学研修制度の充実のため、海外派遣前後における語学研修に関する協議を担当教員と進めている。
- ・プログラム参加者によるネットワーク構築（情報共有・情報発信）：参加者により構築するネットワークにより、情報発信と共有を強化した。
- ・3ヶ月以上の長期派遣に参加する学生のリクルートを強化する必要がある。

【特に優れた取組】

- ・オンライン短期学生交流プログラム  
1月14日～18日および3月7日～16日に2つのプログラムを実施した。本研究科からは、24名の学生の参加があり（それぞれのプログラムに4名と20名）、彼らの国際視野の涵養、学生レベルでの交流が国際ネットワークの構築に貢献した。
- ・オンラインによるハンズオンセミナーの実施  
これまで対面でしか実施できなかったハンズオンセミナーを、IT技術を活用し、連携校と共同でオンラインで本学歯学部学生対象に実施した。新たな学習機会および海外学生との交流機会を提供することができた。
- ・ニューノーマルに対応したオンライン教育プラットフォームの強化  
最先端のオンライン会議用機器を配備した専用会議室を設置した。協定校とのオンラインプログラムを開講し、本学学生の海外留学意識の向上を目指す。
- ・派遣プログラムの効果・教育成果を評価するためのBEVIテストを実施した。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

1. 四川大学
  - ・3月にDD学生2名を受け入れ、実渡航による学生交流を実現した。
2. インドネシア大学
  - ・12月からインドネシア大学とDDプログラム設置に関する協議を開始し、3月には覚書、プログラム概要などについて概ね合意し、2022年度中の締結を目指し協議を進めている。
3. オンライン短期学生交流プログラム
  - ・1月に実施したオンライン短期学生交流プログラムにはアジア太平洋地域の連携校から50名を超える学生の参加を得ることができ、国際的視野を涵養、学生レベルでの国際ネットワークの早期構築および大学院進学の動機付けに寄与した。
4. キャンパス・アジアプラスキックオフシンポジウムおよびIOHS国際シンポジウム
  - ・1月15日には、本事業のキックオフシンポジウムとしてキャンパス・アジアプラスデンタルシンポジウムをオンラインで開催し、1月16日にはインターフェイス口腔健康科学（IOHS）国際シンポジウムをアジア・太平洋地域の連携校と開催し、教育・研究について情報交換を行い、国際共同研究をベースとした交流プログラムの実施を可能とした。

【特に優れた取組】

1. オンライン短期学生交流プログラム
  - ・本事業が採択されてすぐ、1月に本事業の連携校6大学とキックオフシンポジウムを実施し（参加者300名以上）、迅速な本事業の社会発信強化に寄与した。
  - ・1月14日～18日に短期学生交流プログラムを実施した。本プログラムにはキャンパス・アジアプラスの連携校のみならず、本研究科のアジア太平洋地域の連携校から数多くの学生が参加し（計56名）、学生の国際視野の涵養、学生レベルでの交流が国際ネットワークの構築に貢献した。
2. ホームページの開設
  - ・3月にキャンパス・アジアプラスプログラムの専用ホームページ（和英）を開設し、プログラムのプロモーション、情報発信、プログラム希望学生のリクルートが可能となった。また、参加学生がオンラインで交流可能なプラットフォームが完成し、安定した学生交流プログラムの実施に貢献した。

(2) その他(上記(1)に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東北大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	1	1	1	2	2
	認定単位数	10	10	10	20	20
ソウル大学校	認定者数	1	1	1	2	2
	認定単位数	18	18	18	36	36
チュラロンコーン大学	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	10	10	10
年度別認定者数合計		2	2	3	5	5
年度別認定単位数合計		28	28	38	66	66

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	1								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東北大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
北京大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
ソウル大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
チュラロンコーン大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	筑波大学			
タイプ	タイプB①			
事業名	【和文】	地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム		
	【英文】	Development Program for Professionals in Educational Policy Management Contributing to Solving Global Issues		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	加藤光保	(所属・職名) 副学長・理事（教育担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/>

**1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】**

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 1) 運営事務局立ち上げ、運営委員会設置、学生募集・メンター教員指名等に関わる運営体制の整備を進めた。2) 日中韓3大学協議に基づき、共通科目2科目「社会の課題と教育政策」「地球規模課題の実態」(各1単位)、「課題解決特別演習」(3単位)、「課題解決提案特別演習」(1単位)を筑波大学の開設科目とすることを決定した。3) 共通科目2科目のシラバスを作成した。4) 第2ステージの3つの交流プログラムの選択科目群リスト作成と新規科目開設準備を行った。5) 「課題解決特別演習」について各学位プログラムで準備を進めた。6) コンソーシアム覚書の原案作成と日中韓3大学協議を進めた。7) 広報用HP・ロゴ・リーフレット等を作成し本事業を広く周知した。8) SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)国際カンファレンスの中で6大学の関係者が参加して本事業の内容を広くPRした。
<b>【特に優れた取組】</b> 1) 日中韓の3大学による共同で共通科目2科目の開設準備を行ってきた。2) 異なる3つの学問分野の協働を円滑に行うために学内運営委員会と実行委員会を設置した。3) SEAMEOの国際カンファレンスの中で6大学関係者参加の下でPRを行った。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 1) 全学共通の「シラバス作成のためのガイドライン」に基づいて科目の英語シラバスを作成し、獲得できるコンピテンスを明示している。留学生は特別聴講学生として渡日前に各科目の詳細を知ることが可能である。2) シラバスに示した評価基準に基づいて成績評価を行い、学生は教育情報システム(TWINS)を通じて成績を確認できる。3) 「教学マネジメント室」が中心となって学位プログラム等のプログラムレビューを行うとともに「シラバスの作成・改善」「成績評価」などの12項目のループリックに基づくモニタリングとフォローアップを毎年行う教育改善サイクルが構築されている。
<b>【特に優れた取組】</b> 1) 2021年12月9日に日中韓3大学会議を開催して共通科目の内容や準備スケジュール等を協議。2) 2022年2月11日にSEAMEO-UT合同公開シンポジウムの一環としてKickoffシンポジウムを開催し6大学関係者およびASEAN諸国から多くの参加者を得た。3) 2022年3月23日に日中韓3大学会議を開催してMoUの内容やプログラム実施時期等を協議。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 受入学生の環境整備のため次のことを確定して準備を進めた。①特別聴講学生として在籍管理を行い単位取得を伴う授業を履修する。②生活・学習上の支援には日本人学生がチューターとしてあたる。③学生宿舎は大学が確保し経費を負担する。居室環境条件等は事前に運営事務局スタッフが確認し必要な整備を行う。 派遣学生の環境整備のため次のことを確定して準備を進めた。①現地滞在費に充てるJASSO奨学金の採択を受けた。②広報用のHPとリーフレットを配布してプログラム内容の周知をした。③本プログラムの新規開設科目を学位プログラムの修了要件に組み入れる。④派遣先大学の選択科目リストをオリエンテーション時に周知する。⑤筑波大学海外渡航システム(TRIP)入力とOSSMA加入を徹底させ派遣先大学のメンター教員と連携し学生の状況を把握し対応できるようにする。
<b>【特に優れた取組】</b> 学生受入時、全体オリエンテーション、学外フィールドワーク、学生のプログラム授業科目受講の様子等を随時写真や動画で記録し、広報用のHPや学内HPへ掲載を行うことで来年度に向けた広報活動を順次行っている。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本学の東アジア及び東南アジア地域における国際化戦略をさらに進め、従来も数多くの留学生を受け入れてきた中国・韓国およびタイ・マレーシア・インドネシアとの研究交流として、本学からの留学生派遣の活性化を目指す。学問融合を必須とする地球規模課題の解決という共通目的のもと、参加国の学生が国際協働関係を構築することは、本学が進めるグローバル人材の育成に大きく寄与する。本事業の第3ステージでは国際学生カンファレンスを公開で開催する予定であり、プログラム参加学生自身による研究成果の発信とともに、カンファレンス参加者間での討議が可能となる。また、専用サイト(多言語翻訳付)で本事業の内容を学内外へ随時発信することを通じて事業の成果を周知し、他国・他大学へも類似的・国際的協働を普及させる可能性が高まる。
<b>【特に優れた取組】</b> 専用ウェブサイト上でのプログラム内容の紹介。(とくに専門領域の異なる3つの交流プログラム)
<b>(2) 特記すべき成果</b>
MoUの締結に向けて、2021年12月、2022年3月、2022年5月と3回にわたって日中韓3大学会議を開催し、各大学のコロナ禍の実態や各大学の授業開講形態、単位認定基準、各大学の学年歴等、本事業に係る国別の実施条件等の情報交換と意見交流を行うことにより、事業実施に関わる課題を共有することができた。3大学間でMoUの内容を合意した後にASEAN3大学と個別に意見交換を行い、MoUの内容を調整した結果、内容の合意を形成して2022年6月21日に6大学会議を開催することができた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
1) コロナ禍による渡航制限が続く場合、オンラインによる相手先大学の授業履修が可能になるように、オンデマンドによる授業配信を行うこととした。 2) 全学生にとっての基礎となる必修の共通科目2科目をオンデマンド配信とし、派遣前にそれぞれの国で履修できるようにした。これにより、派遣期間中のフィールドワークにゆとりをもたせることとした。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	45	45	50	50	50	50	50	50	215	215
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30	135	135
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	45	45	50	50	50	50	50	50	215	215
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30	135	135
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20	80	80
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

③：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(計画)

		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入								
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数		0	0	10	20	10	20	10	20	10	20	40	80
交流相手国 中国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数		20	20	35	25	40	30	40	30	40	30	175	135
	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	100	100
	ハイブリッド	0	0	15	5	20	10	20	10	20	10	75	35

④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
交流相手国 中国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	20	20	20	20	20	20	20	20
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	20	20	25	25	30	30	30	30	30	30
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	0					0

⑨：交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度派遣学生の実績なし

【特に優れた取組】

19,989人が参加したSEAMEO国際カンファレンスで "MEXT-Tsukuba Inter-University Exchange Project:for East-Southeast Asia Kickoff Symposium" と題したシンポジウムを開催し、総勢234名が参加。筑波大学学生、海外連携大学学生が参加し、修了書が発行された。

⑩：交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルスの影響で、令和3年度受入学生の実績なし

【特に優れた取組】

19,989人が参加したSEAMEO国際カンファレンスで "MEXT-Tsukuba Inter-University Exchange Project:for East-Southeast Asia Kickoff Symposium" と題したシンポジウムを開催し、総勢234名が参加。筑波大学学生、海外連携大学学生が参加し、修了書が発行された。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	5	5	5	5	5	5	20	20

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
華東師範大学	認定者数	0	20	20	20	20
	認定単位数	0	20	20	20	20
韓国教員大学校	認定者数	0	20	20	20	20
	認定単位数	0	20	20	20	20
コンケン大学	認定者数	0	6	6	6	6
	認定単位数	0	6	6	6	6
マレーシア工科大	認定者数	0	7	7	7	7
	認定単位数	0	7	7	7	7
バンドン工科大学	認定者数	0	7	7	7	7
	認定単位数	0	7	7	7	7
年度別認定者数合計		0	60	60	60	60
年度別認定単位数合計		0	60	60	60	60

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数					0
	認定単位数					0
	認定者数					0
	認定単位数					0
	認定者数					0
	認定単位数					0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：筑波大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
華東師範大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
韓国教員大学校	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
コンケン大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
マレーシア工科大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
バンドン工科大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
	認定者数	0				0
	認定単位数	0				0
	認定者数	0				0
	認定単位数	0				0
	認定者数	0				0
	認定単位数	0				0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	山梨大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	A <sup>3</sup> I：アジア実問題解決駆動AI教育プログラム (A <sup>3</sup> Iはアジア応用人工知能の略)		
	【英文】	A <sup>3</sup> I： Real Problem Solving Driven Artificial Intelligence Education Program (A <sup>3</sup> I is the abbreviation of Asia Applied Artificial Intelligence)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	茅 暁陽	(所属・職名) 大学院総合研究部・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://a3i.yamanashi.ac.jp/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 4大学代表者で組織する運営委員会を立ち上げ、共同オンライン授業や4大学対応カリキュラム表を作成し、デュアルディグリーを取得する長期留学生用の時間割を作成した。また、次年度に派遣・受入を開始するショートプログラム、サマープログラムの時期や内容等の検討を行った。3月にはキックオフシンポジウムを開催し、同時に学生ワークショップを開催した。具体的な単位認定や修了時期の相違に関する課題、夏に実施予定のショートプログラム及びサマープログラムの内容などを早期に決定する必要があるため、頻繁に意見交換しながら準備を進め、2022年5月下旬には再度運営委員会を開催し、さらに協議を進めることとしている。
<b>【特に優れた取組】</b> AI産業界のトップランナーを各国から講演者として招き、4大学協働のキックオフシンポジウムを開催し、AIの先端実例や今後のアジアにおけるAI時代の学生の動向について学ぶ機会とした。同時に学生ワークショップを開始し、4か国混合のグループワークによって学生同士の交流を深め、AIの知識を共有する機会とした。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> 運営委員会を設置し、2022年2月までに各大学のシラバスの共有、すり合わせを行い、単位互換計画表の作成とシラバス記載内容の見直しを行った。また、成績証明書の電子化、オンラインコースの開設、動画配信システムの導入など、各国の参加学生が利用できる環境を整えた。
<b>【特に優れた取組】</b> 2021年度中に各大学のシラバスの共有、すり合わせを行い、単位互換計画表を作成した。また教務システムと連携した成績証明書の電子化を行った。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 国際企画課及び工学域、コンピュータ理工学科に英語が堪能な職員を新たに配置し、2022年度に始まる学生の短期交流プログラムの要件等の作成、募集要項等作成などプログラムの土台作りを行った。また運営委員会にて、2022年度に開始する長期留学に向けて、各国の学年暦の擦り合わせ、カリキュラムに関わる共有一覧表を作成し、デュアルディグリープログラムのスタートのための土台作りを行った。
<b>【特に優れた取組】</b> 長期留学に向けて、各国代表者と連絡を密にとり、詳細な内容について、綿密な打ち合わせを行うことが出来た。各国の学年暦の擦り合わせ、カリキュラムに関わる共有一覧表を作成し、デュアルディグリープログラムのスタートのため土台作りを行った。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 2022年に英語による2つの共通科目を設置する準備を行った。また、国際企画課及び工学域、コンピュータ理工学科に3名の英語が堪能な専門職員を新たに配置し、派遣・受入に伴う日程調整、教務関係手続き、単位互換、成績管理、修学支援などを行う体制を整備し、2022年度に始まる学生の短期交流プログラムの要件等の作成、募集要項等作成などプログラムの土台作りを行った。プログラムのホームページ、パンフレットを作成し、広く大学内外へプログラム内容や意義を広報、発信すると共に学生への広報活動を行った。
<b>【特に優れた取組】</b> 2022年に英語による2つの共通科目を設置する準備を行った。また英語の堪能な職員を学内に配置した。またプログラムのホームページ、パンフレットを作成し、広く学内外へ広報、発信すると共に学生への広報活動を行った。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
<u>シンポジウム及びワークショップは、約140名が参加し、産業界におけるAIのさらなる可能性を展望する大変貴重な機会となったことやAIフィールドで学ぶ学生のワークショップにおいて今後の学生交流に期待が持てる、学生たちの積極的な参加が大変有意義な機会となった。また運営委員会の立ち上げ、開催において各国の代表者が集い活発に協議を行うことができ、各国と2022年度に始まる学生交流のプログラム基礎を具体的に構築することが出来たことも大きな成果の一つである。</u>
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
新型コロナウイルス感染症の影響により、本来であれば渡航して、A3I運営委員会を行う必要があるところ、オンラインを活用して各4か国の運営委員会を開催することができた。オンラインで行うことにより、開催のハードルを下げ、打ち合わせも含めて、その都度必要に応じた検討事項など簡単に検討することが出来た。またキックオフシンポジウム・ワークショップについてもオンラインを活用したことで、著名な講演者の講演を拝聴する機会を参加学生に広く提供することが出来た。ワークショップについてもオンラインのブレイクアウトルーム等を活用し、学生間が協働でプロジェクトを行うことが出来た。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	15	45	30	69	35	52	40	55	45	57	165	278
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	24	20	22	25	25	25	27	90	98
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30	55	165
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0	20	15

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	15	45	30	69	35	52	40	55	45	57	165	278
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	20	24	20	22	25	25	25	27	90	98
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30	55	165
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0	20	15

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	11	22	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
	B	11	B	22	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	73%	49%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	11	22	0	0	0	0	0	0	0	0	11	22	
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	11	A	22	A	A	A	A	A	A	11	22
		B			B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航											0	0
	オンライン	A		A		A	A	A	A	A	A	0	0
		B			B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	15	30	20	15	20	15	25	15
実渡航	0	0	15	15	15	15	15	15	15	15
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	15	5	0	5	0	10	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	15	45	15	39	15	37	20	40	20	42
実渡航	0	0	5	9	5	7	10	10	10	12
オンライン	15	45	10	30	10	30	10	30	10	30
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	11	22	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 11 B 0	A 22 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2022年3月17日に学生ワークショップ及びキックオフシンポジウムを行った。グループワークを通してAIに関するAIとアジアの未来について、4ヶ国混合のグループディスカッションを行い、その成果をシンポジウムで発表した。ワークショップでは日本人学生11名、シンポジウムでは日本人学生41名が参加した。  
また2022年度に開始する長期留学に向けて、運営委員会において、各国の学年暦の擦り合わせ、カリキュラムに関わる共有一覧表を作成し、デュアルディグリープログラムのスタートのための土台作りを行った。

【特に優れた取組】

ワークショップでは、各国の学生をグループ分けし、各グループ事にAIに関するテーマを与え、ディスカッションと発表を行った。日本人学生にとっては、英語でのディスカッション、英語でのプレゼンテーションとハードルが高かったが、他国の学生が熱心に取り組む姿に感化され、良い刺激となった。これにより、今後本格的に稼働するこのプログラムへの参加意識を高めることが出来た。

⑩：交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2022年3月17日に学生ワークショップ及びキックオフシンポジウムを行った。グループワークを通してAIに関するAIとアジアの未来について、4ヶ国混合のグループディスカッションを行い、その成果をシンポジウムで発表した。ワークショップでは外国人学生22名、キックオフシンポジウムについては、外国人学生90名が参加した。  
また2022年度に開始する長期留学に向けて、運営委員会において、各国の学年暦の擦り合わせ、カリキュラムに関わる共有一覧表を作成し、デュアルディグリープログラムのスタートのための土台作りを行った。

【特に優れた取組】

ワークショップでは、各国の学生をグループ分けし、各グループ事にAIに関するテーマを与え、ディスカッションと発表を行った。他国の学生さんとの交流を深めるとともに同じ分野で共に学ぶ学生たちの今後の交流を広げる契機とすることが出来た。  
また、アジアのAI界を牽引する企業であるアリババやインテルのディレクターなどを招き、講演を拝聴する機会とし、今後本格的に稼働するこのプログラムへの参加意識を高めることが出来た。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	201年度	202年度	203年度	204年度	205年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	201年度	202年度	203年度	204年度	205年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：山梨大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0	2	2	4
杭州電子科技大学	認定単位数	0	32	32	64	64
	認定者数	0	2	2	4	4
釜慶大学校	認定単位数	0	32	32	64	64
	認定者数	0	1	1	2	2
ペルリス大学	認定単位数	0	16	16	32	32
	認定者数	0	5	5	10	10
年度別認定者数合計		0	5	5	10	10
年度別認定単位数合計		0	80	80	160	160

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：山梨大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数	0			
杭州電子科技大学	認定単位数	0				
	認定者数	0				
釜慶大学校	認定単位数	0				
	認定者数	0				
ペルリス大学	認定単位数	0				
	認定者数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		認定者数				
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	名古屋大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	アジア諸国における炭素ゼロナイゼーションのための人材育成		
	【英文】	Fostering Humans Resources for C-Zeroization in Asia Countries		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	宮崎 誠一	(所属・職名) 大学院工学研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 2021年度については、コロナ禍による渡航自粛の影響が続いていることから実渡航での交流プログラムの実施は無かった。しかしながら、オンラインによる交流の取り組みとして、各大学における交流プログラムの具体化に向けたミーティングや、タイ・中国・韓国の参画大学の関係者と名古屋大学の関係者を集めた運営サイドのオンラインミーティングを実施した。また、3月には名古屋大学・チュラロンコン大学・上海交通大学・韓国海洋大学校の学生を含めたオンラインワークショップを開催した。
<b>【特に優れた取組】</b> 企画立案からワークショップ開催までの日数が少なかったものの、実際に各大学から発表者を選定して学生も含めたワークショップを2日間にわたって開催することができた。特にその中でも、本プログラムに関係する話題を中心に提供・議論を進めることができた。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> 質の保証を担保するために、各大学の運営サイドの専任教員を集めたオンラインミーティングを行った。特に、その中でも単位認定の考え方や各大学間でのルールの違いなどを考慮することで、実際に開催したワークショップにおける発表なども質の保証を伴った状況のもとで実施することができた。また、次年度に実施予定の学生交流についても同様に大学間の質保証の考え方の違いに対して標準化に向けた取り組みを進めることができた。
<b>【特に優れた取組】</b> 各大学の運営・プログラムの責任を持つ専任教員全員を集めたミーティングが開催できたことで、各大学の取組状況や2022年4月以降の計画などについても把握ができた。特に、大学の学年の切り替わる時期が異なる大学同士における、今後のワークショップなどの開催時期の検討も併せて実施できた。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 実渡航を今年度は実施しなかったが、オンラインでのインタラクティブな講義が実現できる講義室の設置を行った。これまでもオンライン授業のシステムは存在していたが、それに双方向で情報共有ができ、さらに授業中に展開されるメモや各個人の回答なども瞬時にオンライン参加者全員に共有ができるシステムに拡張した。また、実際の講義室の状況として登壇者だけでなく教室全体の学生の雰囲気などもわかるよう複数台のカメラ設置をするなど、インタラクティブ性を高める機能を盛り込んだ。
<b>【特に優れた取組】</b> 受講者の学生一人に一台のタブレット端末が支給され、タッチペンなどを使ってダイレクトに手書きの回答やメモなどを作成、参加者内で共有できるシステムを取り入れた。これにより、これまでの受け身姿勢が前提だったオンライン授業に主体性を含めたインタラクティブな授業を展開することができるようになった。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 今回のプログラム実施にあたり、新たにプログラム専用のホームページの設置準備を行った。特に、名古屋大学工学研究科に新たに設置された名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステイナブル材料工学専攻と本プログラムの融合ならびに両者の関係性を強化する宣伝やパンフレットの作成・配布などを実施した。また、実施したワークショップの様子をまとめるなど、今後の情報公開・成果の普及につながる環境作りを実施した。
<b>【特に優れた取組】</b> 日本語・英語のHPを同時作成するだけでなく、パンフレットについても日本語・英語版の両方を作成した。その中では、特に大学内のプログラム全体の狙いや目標・最終的な交流プログラムの規模などが明確に分かるようなものに仕上げた。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
実質的には4ヶ月しかなかった期間内で、(1)各国の専任教員による運営に関するミーティングが実現できたこと、(2)本プログラム参加国の代表者だけでなく学生も含めた交流の場としてのワークショップが開催できたこと、(3)次年度以降にも活用できる双方向性の高いインタラクティブな授業のできる講義室を設置できたことが特記すべき成果と考えられる。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
特に、一般的なオンラインによる交流やワークショップのようなミーティングにおいては、自分自身で記載したメモなどについて、コンピュータへ逐一入力してから送信するなど、インタラクティブ性に関しては遅れを取っていた。そこで本プログラムにおいては、受講する学生一人ひとりにタブレット端末を支給することで全員が授業内でコメントを主張できたり授業内での質問に対する回答などを簡単に共有できるようになった。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	66	32	126	42	156	52	156	52	156	200	660
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	10	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135	170	570
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15	20	60
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	22	66	32	126	42	156	52	156	52	156	200	660
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6	10	30
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135	170	570
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15	20	60
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）												
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	25	45	0	0	0	0	0	0	0	0		
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0										
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	25	A	45	A		A		A		A	
	B	0	B	0	B		B		B		B	
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0										
達成目標に対する実績の割合	114%	68%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
交流相手国 中国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	25	45	0	0	0	0	0	0	0	0	25	45		
	オンライン	A	25	A	45	A		A		A		A		25	45
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	20	60	30	120	40	150	50	150	50	150
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	20	60	25	105	35	135	45	135	45	135
ハイブリッド	0	0	5	15	5	15	5	15	5	15
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
実渡航	2	6	2	6	2	6	2	6	2	6
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	25	45	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 25 B 0	A 45 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0								
オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B							
ハイブリッド	0	0								

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの  
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

コロナ禍による渡航制限のため、実渡航による派遣はできなかったが、その代替手段としてオンラインによる派遣・受入の実施をワークショップを通じて実施した。ただし、本来の計画には入っていないプログラムだったことから、参加などによる単位認定は伴わないものとなった。学生間の交流として、名古屋大学の学生が積極的に海外の大学の発表内容ならびに発表者の研究背景に興味を持ち、質疑応答についても精力的だった。

【特に優れた取組】

実渡航ができない代替手段としてオンラインでのワークショップを企画したが、一般的に受け身姿勢の強いオンラインでの講義や発表を聞くだけでなく、双方向に積極的なコミュニケーションが成立する環境を活用することで、インタラクティブな交流が実現できた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

海外大学からの日本への実渡航が事実上できない状況下において、オンラインでのワークショップを実施することで名古屋大学としての受入体制を明示する機会を得たとともに、実際に海外大学の学生の研究発表や日本への将来的な渡航による交流プログラムに期待することなどが議論できた。また、来日後に予定している研究計画や実施する研究内容についての紹介や議論が活発に行われ、次年度への実渡航のプログラム構築の参考となる内容が多かった。

【特に優れた取組】

受入をする上での名古屋大学での取り組みや受入体制などについて、ワークショップ内での質疑応答が多かったことから、海外大学の学生が実渡航によるプログラムで何を期待しているかについてが明確に理解できた。また、ワークショップにおけるインタラクティブなコミュニケーションができたことから、実渡航前に既にどんな学生が来るのかがよく分かる状況となった。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	201年度	202年度	203年度	204年度	205年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	201年度	202年度	203年度	204年度	205年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		上海交通大学	認定者数	21	25	36
	認定単位数	0	0	0	0	0
韓国海洋大学校	認定者数	20	26	35	46	46
	認定単位数	0	0	0	0	0
チュラロンコン大学	認定者数	21	26	36	45	45
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		62	77	107	137	137
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		上海交通大学	認定者数	0		
	認定単位数	0				
韓国海洋大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
チュラロンコン大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成		
	【英文】	International Collaborative Human Resources Development Program in Asia to Foster Inclusive Minds		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長（グローバル化担当）	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調書分 相手大学名  ※追加調書を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

日本語版：<https://inclusive-asia.hiroshima-u.ac.jp/>  
英語版：<https://inclusive-asia.hiroshima-u.ac.jp/en/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 障害の有無、平和観、宗教観、ジェンダー/マイノリティ観の違いから生じるバリアに関わらず、コミュニケーションによる協調によって問題解決にあたる人材育成を目的として、COIL型教育、短期派遣、サマースクールおよびセメスター留学の4つのプログラムを実施する。令和3年度は、最初のフェーズとして、COIL型教育を実施し広島大学生7人、海外からの学生34人、合計41名が参加した。
【特に優れた取組】 視覚障害を持つなど、多様な立場およびバックグラウンドの学生がオンラインで協働したこと、さらに広島大学に加え長春大学、インドネシア教育大学の教員が授業提供したことで、各国の特別支援教育の現状等、多角的な視点から深く学ぶ機会を提供することができた。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 質の保証を伴った大学間交流を行うべく必要な項目を定めた学生交流協定のもと、プログラムを実施している。令和4年3月には、5か国6大学の教職員が、オンラインでキックオフ会議に参加し、プログラム目的の共有や、事業実施に係る協議を行い、共通理解に基づく推進体制と信頼関係を構築した。さらに学年暦及び成績評価基準の情報共有を行い、推進上の課題及び解決方法について具体的な議論を行った。
【特に優れた取組】 全ての教育取組を授業科目として提供することで、全学的なガイドラインに従った授業方法と内容、到達目標、成績評価方法・基準等による厳密な成績管理を行い教育の質を保証している。さらに、各教育取組において、学生が修得すべきコンピテンシーを到達目標として設定している。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 本事業は全学体制で展開すべく実施部会を設立、また専任職員を配置し、派遣・受入のワンストップサービスを提供しており、プログラムの円滑な実施が可能となっている。また、当該プログラム用の科目を新規開設し、シラバスに沿って各プログラムを実施する環境を整えた。さらに、翌年度から実施するサマースクールの立案も開始し、実施部会および海外相手大学との協議を重ね、受入体制を整える準備ができた。
【特に優れた取組】 本事業の専任職員を配置し、連携機関との調整及びプログラムの企画運営を全学を横断した形で担当することで、派遣と受入れをワンストップで支援できる体制を構築しており、交流を円滑に実施することができた。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 令和4年3月の参加6大学によるキックオフ会議において、各大学の取り組みについて教員が情報共有を行うことで、関連分野での知見を得ることができた。また、当該会議で令和3年度に実施したCOIL型教育の参加学生が学習成果を発表し、意見交換を行ったことで、翌年度からのプログラムの高度化に繋げることができた。
【特に優れた取組】 本事業の専用ホームページを公開したことで、学外に成果を公表できる環境を整えることができた。令和4年度はCOIL型教育からセメスター留学まですべてのプログラムを実施し、成果を広く公開していく予定である。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
令和3年度に実施したCOIL型教育は、すでに広島大学で実施しているオンライン教育プログラムをベースにした形のものであることから、 <u>企画から実施までの検討を簡略化することができ、初年度から実質的なプログラムをスムーズに開始することができた。</u> 当該プログラムに引き続き、韓国外国語大学がオンデマンド型の同テーマについてのコースを実施し、当該学習に参加した学生の中から27名が参加した。共同実施大学間で連続的な取り組みを実施することにより、当該分野に関する参加者の理解を定着させることができた。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
視覚障害のある学生も参加していたことから、共有画面の色見を工夫したり、図表や字幕を活用するなど、様々な参加者への配慮を行った。また、活発な議論ができるよう、オンライン上でBreak Upセッションを行った。 広島大学に加えて、共同実施大学である長春大学、インドネシア教育大学からも教員が講義を提供することで、連携大学間での複数の視点から重層的な交流プログラムを実施することができた。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	40	46	64	46	64	46	64	46	64	194	296
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	36	24	36	24	36	24	36	24	144	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	10	40	46	64	46	64	46	64	46	64	194	296
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	36	24	36	24	36	24	36	24	144	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	7	34	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	7	B	34	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	70%	85%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入									
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交流相手国 中国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及び韓国	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	0	0
	ハイブリッド											0	0
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航											0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	0	0
		B	7	34	B	B	B	B	B	B	B	7	34
	ハイブリッド											0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの





A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0									0	0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2021年度は、COIL型教育を実施し、合計7名の学生がプログラムに参加し、修了要件を満たした学生をプログラムの修了者として修了証を付与した。2022年度以降は、海外相手大学での単位取得を伴うサマースクール、短期派遣プログラム、3か月以上のセメスター派遣プログラムを開始するなど、本格的な海外派遣留学プログラムを開始する。学内で実施している海外派遣留学プログラムの事例を参考に、海外相手大学への留学に当たり必要となる事前・事後研修の充実及び派遣学生の安全管理の整備等を進めていく計画である。また、単位互換についても、交流予定の大学等と引き続き協働していく予定である。

【特に優れた取組】

オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し、5カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。また、コロナ禍ではあっても、本事業が目指す学生の協働の機会を提供することが出来た。オンラインでは、少人数グループでの協働を重視し、また、TAをつけるなど、学生同士の交流が促進するように努めた。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2021年度は、COIL型教育を実施し、合計34名の学生がプログラムに参加し、修了要件を満たした学生をプログラムの修了者として修了証を付与した。2022年度以降は、サマースクール、3か月以上のセメスター受入プログラムを開始するなど、本格的な受入プログラムを開始する。受入体制及び環境整備を進めていく予定である。また、単位互換についても、交流予定の大学等と引き続き協働していく予定である。

【特に優れた取組】

オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し、5カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。また、コロナ禍ではあっても、本事業が目指す学生の協働の機会を提供することが出来た。オンラインでは、少人数グループでの協働を重視し、また、TAをつけるなど、学生同士の交流が促進するように努めた。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：広島大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		北京師範大学	認定者数	0	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
長春大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
韓国外国語大学	認定者数	0	2	2	2	2
	認定単位数	0	16	16	16	16
インドネシア教育大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
カセサート大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
年度別認定者数合計		0	6	6	6	6
年度別認定単位数合計		0	48	48	48	48

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		北京師範大学	認定者数	0		
	認定単位数	0				
長春大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
韓国外国語大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
インドネシア教育大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
カセサート大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	長崎大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム		
	【英文】	Asia Fisheries and Marine Environment Leaders Program		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	武田 重信	(所属・職名) 水産・環境科学総合研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用				

<https://www.campus-asia.com/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
<b>①交流プログラムの内容</b> 日中韓マレーシアの4大学の大学院生18名が参加したオンライン学生交流会を2021年2月に開催し、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義や、参加学生全員のショートプレゼン（研究紹介）により、国際人材養成に資する教育活動を開始した。本事業は今年度採択事業であり、実質的な学生派遣・受入は来年度（2022年度）開始となるが、その準備として本事業の主体となる学生への教育・交流機会を、コンソーシアムを形成する4大学の共催で設けられたことは大きな成果である。今後も、派遣を希望する学生への動機付けの機会確保といった要素も含めて、このような取組みを定期的・継続的に実施する予定である。
<b>【特に優れた取組】</b> 来年度から開始する実質的な学生派遣受入の準備として、コンソーシアムを形成する4大学の共催により、オンライン学生交流会を開催し、特別講義および参加学生による研究紹介を実施した。本取組は、来年度以降に派遣を希望する学生への動機付けとして有効であると運営委員会にて評価された。
<b>②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成</b> 本事業に関する学内運営委員会に関する内規を制定した（令和4年2月）。また、本内規に基づき、令和4年3月に学内運営委員会および内部評価委員会を開催した。加えて、次年度（2022年度）から開始する短期留学プログラム、2年後の2023年度開始のダブルディグリープログラム（DDプログラム）について、コンソーシアムを形成する中心大学である中国海洋大学、釜慶大学校および長崎大学における教務事項や提供科目等の情報をオンライン会議等を通じて共有した。
<b>【特に優れた取組】</b> 来年度から開始する実質的な学生派遣受入に向けて、本事業に関する学内運営委員会内規を制定するとともに、それに基づいた学内運営委員会及び内部評価委員会を開催し、今年度の準備状況の確認・達成度評価および次年度以降の本事業実施に関する議論を行った。
<b>③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備</b> 本事業では、実渡航とオンラインのハイブリッド型カリキュラムを導入するため、その実施に必要な「オンライン講義配信システム」を設置し、2022年度以降の短期留学および2023年度以降のDDプログラム実施のための環境整備を行った。また、①にも記載したように、4大学の大学院生が参加したオンライン学生交流会を実施し、2022年度以降の派遣・受入に向けた雰囲気醸成に資した。
<b>【特に優れた取組】</b> 次年度以降実施のハイブリッド型カリキュラム実施に向けて、本学学生と海外コンソーシアム大学の学生がリアルタイムで同時に講義を受講し、議論を行うための機材整備を行った。
<b>④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及</b> 専用ホームページ（HP）を新たに立ち上げ、運用を開始した。また、広報用パンフレットを1000部作成し、本学大学院水産・環境科学総合研究科、水産学部、環境科学部の新年度学生オリエンテーション時に配布することを決定した。広報資料として、本補助事業の内容紹介資料（スライドショー）を作成し、本学水産学部、環境科学部玄関に設置されたデジタルサイネージにて表示した。
<b>【特に優れた取組】</b> 専用HP、広報用パンフレットおよびスライドショーをそれぞれ作成・活用し、本事業の幅広い周知、特に次年度以降の学生派遣・受入希望者の掘り起こしに向けた準備を達成した。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
上記①および②に記載したように、 <u>来年度から開始する実質的な学生派遣受入の準備として、コンソーシアムを形成する4大学の共催により、オンライン学生交流会を開催し、特別講義および参加学生による研究紹介を実施した。本取組は、来年度以降に派遣を希望する学生への動機付け、雰囲気醸成として有効であった。</u>
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
実渡航を伴う学生派遣・受入は次年度2022年度からの開始であるが、その準備として「オンライン講義配信システム」を本学講義室に導入し、試験運用を終了し、次年度2022年度以降の実使用に向けた整備を終了している。本システムは、複数台のカメラを使用することにより、本学講義室で受講している日本人学生、海外からオンラインで受講している留学生および担当教員の映像および音声をクリアに展開できるため、双方向のディスカッションなどにおける有効性が期待できる。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20	34	56

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0								
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 （以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A
	B	0	B	0	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0								
達成目標に対する実績の割合	-	-	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
交流相手国 中国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国、韓国及び ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	6	6	8	12	10	18	10	20
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	A	A	A	A
		B	0	B	0	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0							

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

実際の派遣を伴う学生交流プログラムは次年度2022年度開始のため、本年度の派遣進捗は無い。その準備として、日中韓マレーシアの4大学の大学院生18名が参加したオンライン学生交流会を2021年2月に開催し、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義や、参加学生全員のショートプレゼン（研究紹介）により、国際人材養成に資する教育活動を開始した。本事業の主体となる学生への教育・交流機会を、コンソーシアムを形成する4大学の共催で設けられたことは大きな成果である。今後も、派遣を希望する学生への動機付けの機会確保といった要素も含めて、このような取組みを定期的・継続的に実施する予定である。

また、次年度に開始する交流プログラム（派遣）に向けて、4大学でのオンライン会議を数回重ね、日程、提供教育プログラムの内容、滞在宿泊施設などに関する協議を密に実施した。

【特に優れた取組】

来年度から開始する実質的な学生派遣の準備として、コンソーシアムを形成する4大学の共催により、オンライン学生交流会を開催し、特別講義および参加学生による研究紹介を実施した。本取組は、来年度以降に派遣を希望する本学学生への動機付けとして有効と評価された。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

実際の受入を伴う学生交流プログラムは次年度2022年度開始のため、本年度の受入進捗は無い。その準備として、日中韓マレーシアの4大学の大学院生18名が参加したオンライン学生交流会を2021年2月に開催し、持続可能な海洋環境と水産に関する最新の国際情勢を学ぶ特別講義や、参加学生全員のショートプレゼン（研究紹介）により、国際人材養成に資する教育活動を開始した。本事業の主体となる学生への教育・交流機会を、コンソーシアムを形成する4大学の共催で設けられたことは大きな成果である。今後も、派遣を希望する学生への動機付けの機会確保といった要素も含めて、このような取組みを定期的・継続的に実施する予定である。

また、次年度に開始する交流プログラム（受入）に向けて、4大学でのオンライン会議を数回重ね、日程、提供教育プログラムの内容、滞在宿泊施設などに関する協議を密に実施した。

【特に優れた取組】

来年度から開始する実質的な学生受入の準備として、コンソーシアムを形成する4大学の共催により、オンライン学生交流会を開催し、特別講義および参加学生による研究紹介を実施した。本取組は、来年度以降にコンソーシアムを形成する海外3大学から長崎大学での受入を希望する学生への動機付けとして有効と評価された。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国海洋大学	認定者数	0	2	3	3	3
	認定単位数	0	8	8	18	18
釜慶大学校	認定者数	0	2	3	3	3
	認定単位数	0	8	8	18	18
マレーシアトレンガヌ大学	認定者数	0	2	2	4	4
	認定単位数	0	8	8	16	16
年度別認定者数合計		0	6	8	10	10
年度別認定単位数合計		0	24	24	52	52

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：長崎大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
中国海洋大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
釜慶大学校	認定者数	0				
	認定単位数	0				
マレーシアトレンガヌ大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和3年度採択）  
令和4年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	立教大学			
タイプ	タイプB①	※プルダウンから、タイプを選択してください。		
事業名	【和文】	リベラルアーツの高度化に向けたアジア4大学共同体 —国際共同副専攻によるグローバルリーダー育成		
	【英文】	The Asian Consortium for Excellence in Liberal Arts and Interdisciplinary Education (The ACE)		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	松井秀征	(所属・職名) 副総長 (国際化推進担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名  ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL  
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://ace.rikkyo.ac.jp/>

## 1. 取組内容の進捗状況【(1)と(2)で1ページ以内、(3)～(5)で2ページ以内】

本事業における <u>2021年度</u> の取組内容について記入してください。
<b>(1) 取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望</b>
①交流プログラムの内容 2022年2月にオンラインによるウインターインテンシブプログラム(2月14日,2月18日)を開催し、4大学よりそれぞれ学生5-6名が参加した(合計23名)。基調講演をヒントとした1グループ4名(計6グループ)のディスカッションとプレゼンテーションが行われた。グループワークについては、学生間の積極的な発言を阻害しないため教職員の介入を行わなかったが、意欲的な学生の集まりであったため、2月15日~2月17日の期間、積極的なディスカッションが行われていた。グループディスカッションは参加学生の意欲によって成果が大きく左右されるため、いかにグループワークに意欲的に取り組めるようにプログラムをデザインするのが課題となる。
<b>【特に優れた取組】</b> オンラインによるグループワークでは、特定の学生との交流しか期待できないが、GatherTownというアプリを用いて、参加者全員が自由に往来できる空間を提供し交流を促進した。
②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 2021年11月から2022年6月にかけて6回のACE運営協議会を開催し、ルーブリックの開発、国際共同副専攻のための成績証明書、C <sup>6</sup> ubic Curriculumの開発の協議を継続して行い実現を目指している。いずれも日本国内にとどまらない国際的な通用性を目指した枠組み作りであり、これは韓国、中国、シンガポールにおいて有数の大学との共同開発であるため、国際的なリベラルアーツ教育の質を保証する枠組みである。
<b>【特に優れた取組】</b> C <sup>6</sup> ubic Curriculumは、それぞれの科目を通して獲得が期待される6つのスキルを割り当てたものであり、学生が科目を選択する際に、リベラルアーツ教育と期待されるスキルを有機的に結び付けて学ぶことを期待している。そのため推奨科目設定と獲得が期待されるスキルを明示することとしている。
③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 受入では、寮の手配や入国対応、出願システムの整備、渡航前後の手続きをまとめたポータルサイトの作成を通して、日本での生活イメージをしやすい環境を整えた。派遣では、2021年12月の募集説明会の動画掲載、質問サイトの構築など、常に本プログラムの情報を確認できる体制を取り、テレキューブを用いたオンライン学習環境も積極的に整備した。本プログラム専属コーディネーター及び嘱託職員を各1名配置することで、学生との連絡を密にとれる体制を整えた。
<b>【特に優れた取組】</b> テレキューブ設置によって、参加者は常に本プログラム参加にあたって必要となる学習及び学習スペースを確保することができた。特に対面授業が再開し、狭隘なキャンパス内では音声を伴った学習は、教室や図書館であっても困難であるが、これを可能とした。
④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 本事業については、専用のサイト(4言語)を立ち上げ情報を発信する体制を整えたほかに、学内広報誌や年次報告書による事業説明や展望を発信してきた。本学公式ホームページ上でも特集記事を作成し公式に発表するなど、2021年11月の採択から本学の取り組みについて順次、外部への発信を行った。
<b>【特に優れた取組】</b> 公式ホームページにおいて、本事業責任者のインタビュー記事を掲載し、世界展開力強化事業並びに国際的な枠組みの中でのリベラルアーツ教育の意義について発信をした。本取り組みは本学のリベラルアーツ教育の国際的な立ち位置を確認する機会となり、更なる深化を促す機会となっている。この取り組みを通して、日本国内のリベラルアーツ教育の高度化を目指している。
<b>(2) 特記すべき成果</b>
協定校の学生とのグループワークでは、基調講演を身近なテーマに設定することで、自分の経験に基づく発言が見られ、積極的な意見交換が行われた。これによって、語学力や知識だけではなく、各国における視点や教育の在り方の違いが際立ち、参加者同士の興味関心を喚起した。
<b>(3) オンラインを活用した工夫・改善点</b>
今回導入したテレキューブは、授業の合間の時間を有効活用するための静粛な学習環境として活用が進んだ。2022年4月より対面授業が中心となったことで、オンライン学習の場所確保が困難となることが予想されたが、テレキューブが静粛で集中しやすい学習環境となったことで、語学研修やオンラインオリエンテーションへの参加場所を提供する結果となり、オンライン学習のハードルを下げた。

2. 交流学生数の実績等 【(1) で6ページ以内、(2) (3) で1ページ】

(1) 交流する学生数について													
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)													
●申請時の計画調書記載人数													
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	54	22	73	50	61	86	61	86	249	244	
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	18	7	25	14	19	26	19	28	81	75	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	36	15	48	36	42	60	42	58	168	169	
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
●海外相手大学追加調書分													
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
●合計人数													
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
	0	0	54	22	73	50	61	86	61	86	249	244	
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	18	7	25	14	19	26	19	28	81	75	
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生（以下「オンライン」）	0	0	36	15	48	36	42	60	42	58	168	169	
実渡航とオンライン受講を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数（実績）													
各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度				
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入			
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）	0	0											
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生（以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	A	A	A	A	A			
	B	6	B	0	B	B	B	B	B	B			
実渡航とオンライン受講を行った学生（以下「ハイブリッド」）	0	0											
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%			
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの												
B	もともとオンライン実施で準備していたもの												



④：【三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳】(実績)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計				
	派遣	受入	派遣	受入											
三カ国共通の財政支援対象となる交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
交流相手国 中国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 ASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及び韓国	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
交流相手国 中国、韓国及びASEAN	実渡航	0	0									0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	0	B	0	B		B		B		B		0	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	
自己負担又は大学負担等による交流学生数	実渡航	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0		
	オンライン	A	0	A	0	A		A		A		A		0	0
		B	6	B	0	B		B		B		B		6	0
	ハイブリッド	0	0										0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの



●合計

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		
	派遣	受入									
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	12	0	24	0	12	36	12	36
	オンライン	0	0	6	0	12	0	6	12	6	14
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	42	21	48	48	48	48	48	48
	オンライン	0	0	12	6	12	12	12	12	12	12
	ハイブリッド	0	0	30	15	36	36	36	36	36	36
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	6	0	0	1	1	2	1	2	1	2
	オンライン	0	0	0	1	1	2	1	2	1	2
	ハイブリッド	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥：【交流形態別 内訳】（実績）

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】										
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 6	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A B						
	ハイブリッド	0	0							
		0	0							

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑦：宿舎の提供について（実績）

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等） を提供した学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入								
	0	0										0

⑧ 同窓会ネットワークへの参加者数について（実績） ※タイプA①・タイプA②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
						0

⑨：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2021年度は採択初年度であり、申請当初より学生交流の計画数を0名としていた。採択以降、ソウル大学校を中心として、2022年2月にオンラインによるウインターインテンシブプログラムを開催し、4大学よりそれぞれ学生5-6名が参加した（合計23名）。このプログラムの実施により、当初よりも早い時期から学生交流を開始することを実現した。また、本学では2021年12月20日に本事業の中核を担う交換留学パートの学生募集説明会をオンラインで実施し、3学部より40名を超えるが学生集まった。その後2月に各学部にて出願を受け付け、学部内選考、最終面接選考を経て派遣留学生を6名選出し、3月、4月にオリエンテーションを開催した。また、当初の予定通り、英語以外の語学研修を3月に開始し、2022年5月には渡航前の英語能力試験（IELTS）の受験を完了している。

当初2022年9月出発でソウル2名、シンガポール2名、北京2名の派遣を予定していたが、現地受入準備及びビザ発給状況から、ソウル4名を2022年9月出発とし、2名は2023年2月より出発に変更を予定している。

【特に優れた取組】

2022年2月に開催したキックオフイベントであるウインターインテンシブプログラムは、2月14日の基調講演とグループワーク、2月18日のプレゼンテーションで構成されたオンラインプログラムであった。通常のオンラインでのグループディスカッションを実施した場合、グループの学生のみの環境での意見交換となり、他のグループとの交流ができないため、閉鎖的な空間で特定の学生同士の学生交流となる欠点がある。

この欠点を克服するため、今回はGatherTownというアプリを用いて、雑談スペースを設けグループ外の学生との交流を可能とすることを目指した。この結果、グループ外の学生同士のコミュニケーションが行われ、2月15日～2月17日に自由開催とされたグループワークでは、チームメイトだけではない交流が確認されており、このような交流をデザインすることができたことは、新たなオンライン学習の取り組みである。

⑩：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2021年度は採択初年度であり、正式な採択通知が11月であったため、申請当初より学生交流の見込み数を0名としていたため、受入に関しては予定通り0名となった。一方で2022年3月には、本事業による2022年9月受入の学生3名が決定し、受入準備を開始した。

当該学生については既存の受入出願システムを用いて出願を開始し、本学における正式な受入を決定した。本学では本事業参加者向けの科目設定をいち早く開始し、C<sup>6</sup>ubic Curriculumで身に付けることが期待される能力を割り当てに取り掛かった。この科目については参加3学部の国際担当教員を窓口とした定期的な学内会議を定期的に行い、各学部と調整の結果確定作業を行っている。

【特に優れた取組】

C<sup>6</sup>ubic Curriculumのスキル割り当てについて各科目への割り当て作業をいち早く取り組んだことによって、第1期生（2022年9月派遣）より適切な科目選択が可能となる見通しである。

(2) その他 (上記 (1) に該当するもの以外)

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

(3) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2021年度末における目標の達成状況

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

**(4) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績**

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：立教大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		ソウル大学校	認定者数	0	26	29
	認定単位数	0	92	96	72	96
北京大学	認定者数	0	14	28	28	16
	認定単位数	0	68	96	96	72
シンガポール国立大学	認定者数	0	14	16	16	16
	認定単位数	0	68	72	72	72
年度別認定者数合計		0	54	73	61	61
年度別認定単位数合計		0	228	264	240	240

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 (単位：校)

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	派遣	受入								
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0								

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 (単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：立教大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		ソウル大学校	認定者数	0		
	認定単位数	0				
北京大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
シンガポール国立大学	認定者数	0				
	認定単位数	0				
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
			認定者数			
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0